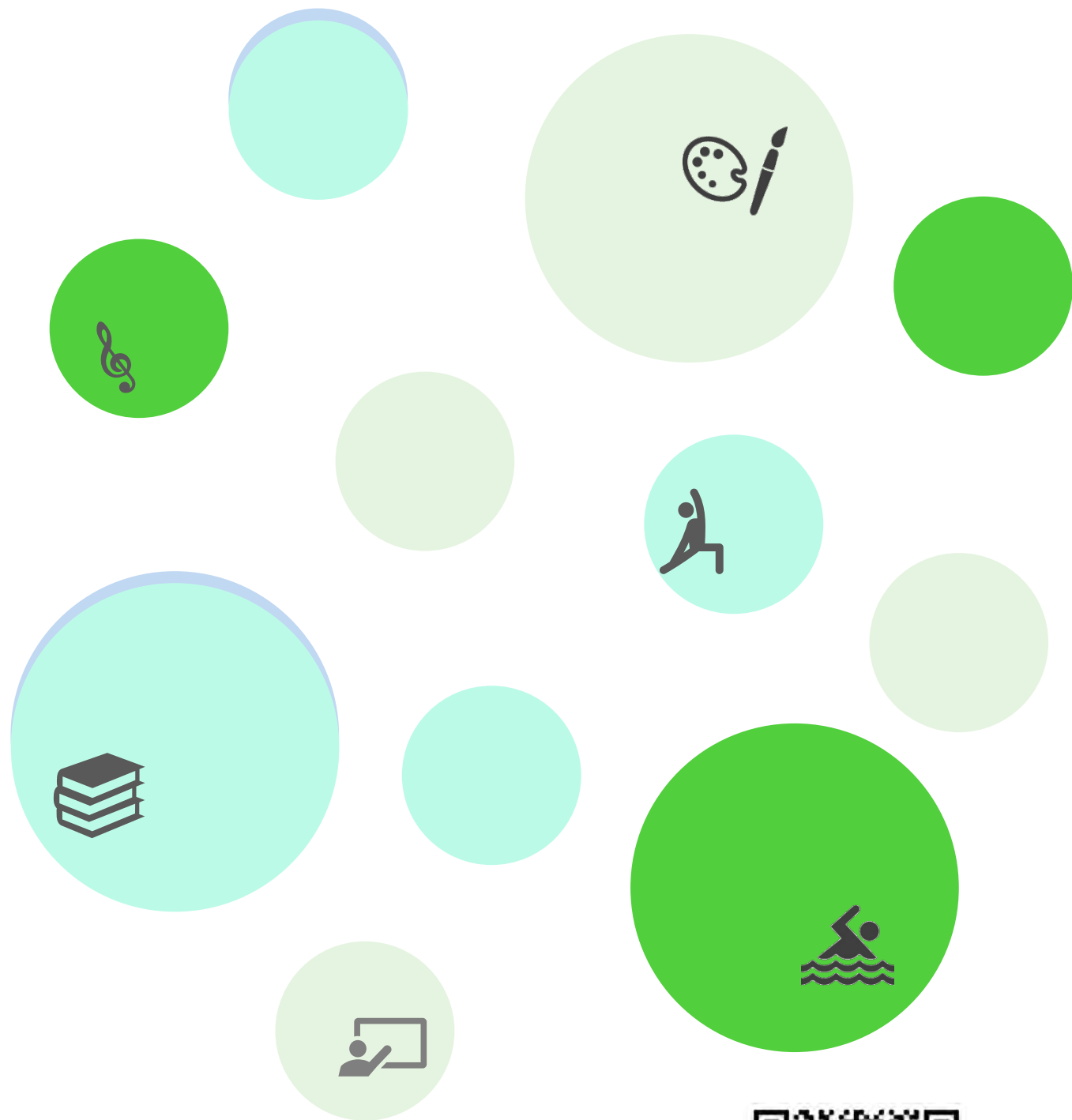


文部科学省Webサイトでは、
障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。
是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm



障害者の生涯学習

検索



令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 事例集

令和4年度 「障害者の生涯学習支援活動」に係る 文部科学大臣表彰

事例集



障害者の生涯学習を支える全国の取組を紹介



文部科学省

文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室

令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰
事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方々が生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取組を進めています。

この取組の一環として、平成29年度から、障害のある方の生涯学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対して、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。

6回目を迎えた今年度も、全国から数多くの素晴らしい活動について御推薦をいただき、56の個人及び団体の皆様を表彰する運びとなりました。回を重ねるごとに「障害者の生涯学習支援活動」の内容も多様性を増し、長年にわたる功績のみならず、新しいチャレンジや分野を超えた連携の取組など今後の展開が期待される活動を含め、多くの皆様を表彰することができるようになってまいりました。全国各地で障害のある方々の生涯にわたる学びを支える活動が認識され、その取組が着実に広がりを見せている結果であり、大変嬉しく思っております。

今回表彰された皆様の取組を、ぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただきたく、ここに1冊の事例集としてまとめました。この事例集を参考にして、障害のある方々の学びの場、機会がさらに広がることを期待しております。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

令和4年12月

文部科学省総合教育政策局

男女共同参画共生社会学習・安全課

障害者学習支援推進室長 鈴木 規子

目次

推薦者	被表彰者の名称	一言PR	活動分野	主な連携先	ページ
北海道	伴走サークル楽・RUN	「走ることが好き」が合言葉	スポーツ	社会福祉法人 等	1
青森県	東 信昭	絵画指導を通じた障害者の芸術文化活動の推進	文化芸術	特別支援学校、社会福祉法人等	2
岩手県	ぼけっとの会	障害が重くても地域で豊かに暮らそう！	学習 文化芸術 情報保障	企業、NPO団体、行政、高等学校、特別支援学校	3
宮城県	特定非営利活動法人ポラリス	地域ではたらく・たのしむ・まなぶ	学習 文化芸術 情報保障	山元町・当事者会・地域の協力者	4
宮城県	気仙沼市障害者スポーツ協会	輝く笑顔！今日も元気に楽しもう！	スポーツ	身体障害者福祉協会、卓球バレーボール協会等	5
秋田県	秋田県ポッチャ協会	あきた ワンツ だふる ポッチャ	スポーツ	社会福祉協議会、障害者スポーツ協会など	6
茨城県	土浦朗読の会	耳に届け！ 響け心に！～声のちから～	情報保障 学習	社会福祉法人・図書館	7
群馬県	太田点訳奉仕の会	ともに学び、ともに飛躍を！	情報保障	太田市・社会福祉協議会・視覚障害福祉協会	8
千葉県	学び舎コホミン (我孫子市湖北地区公民館)	一緒に学ぼう、遊ぼう、みんなの「学び舎」で！	学習 スポーツ 文化芸術	特別支援学校 大学 行政（その他）	9
東京都	調布市立図書館 点訳者 (調布プライユ、点訳くすのき)	読みたい、学びたい、に応える！	情報保障 学習	行政機関	10
東京都	フェルトブック	作りつづけるぬくもり～さわって感じる布の絵本～	情報保障 学習 文化芸術	練馬区立貫井図書館	11
東京都	認定NPO法人 Hands On Tokyo	インクルーシブな社会を作りたい！	学習 スポーツ 文化芸術 等	NPO法人、社会福祉法人等	12
神奈川県	鈴木 秀雄	“みんなに支援、”みんなで支援！！”	学習 スポーツ 文化芸術 情報保障 その他	一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会	13
神奈川県	神奈川県FIDバスケットボール連盟	1人ひとりが主役 バスケットボールを楽しもう	スポーツ 文化芸術	社会人クラブチーム、特別支援学校	14
富山県	車いすバスケットボールサークルREAL	健全者、障がい者の境界を“あいまい”に！一車いすバスケットボールサークルー	スポーツ	放課後等デイサービス、障害者福祉事業所等	15
福井県	NPO法人越前市障がいスポーツクラブ	みんな仲間だ！元気にスポーツを楽しもう！	スポーツ	行政、小学校、社会教育関係団体等	16
福井県	福井県卓球バレー協会	いつでも、どこでも、みんなが笑顔！	スポーツ 学習	行政、ライオンズクラブ等	17

目次

推薦者	被表彰者の名称	一言PR	活動分野	主な連携先	ページ
静岡県	総合型地域スポーツクラブプラスワン「チャレンジ教室」	楽しく！笑顔で！苦手なことにもチャレンジしてみよう！	スポーツ学習	行政・スポーツ推進委員会	18
愛知県	点訳サークル てんてん	点訳で寄り添う あなたの暮らし	情報保障学習	市、社会福祉協議会、図書館	19
愛知県	音訳ボランティア こだまの会	『継続して届けたい 音訳資料を視覚障害者に』	情報保障	豊川市社会福祉協議会・豊川市	20
兵庫県	手話サークル津名	聴覚障害者と共に歩む	情報保障学習	手話サークル津名	21
奈良県	奈良県音訳グループ 草笛会	より良い音訳をめざして半世紀	学習 情報保障	行政（保健、福祉部門）、特別支援学校	22
奈良県	ぐれいとぶっだ	ぼちぼちいこか！いつも笑顔の仲間たち	スポーツ	各種スポーツ活動団体等	23
岡山県	障害者野球チーム 岡山桃太郎	全員野球	スポーツ学習	玉野市身体障害者福祉連合会内	24
広島県	点訳ボランティア「てんゆう会」	つなげたい、つながりたい、みんなとできる6点字	情報保障学習	社会福祉法人、市役所、学校等	25
広島県	広島県インクルーシブフットボール連盟	サッカーが、みんなとつながる架け橋になる！！	スポーツ	社会福祉法人、NPO法人、大学、企業等	26
山口県	山口県障がい者スポーツ指導者協議会	広げよう、つながろう、共にスポーツができる環境づくり	スポーツ	障害者スポーツ協会、短大・ボランティアサークル等	27
徳島県	点訳燦の会	すべての子どもたちに読書体験を	情報保障学習	特別支援学校	28
徳島県	藤岡 明美	共に夢に向かって！！～夢は医学もこえる～	スポーツ	スポーツ団体、スポーツ施設等	29
愛媛県	おもちゃ図書館きしゃポッポ	やさしさと笑顔がいっぱい	学習 文化芸術	新居浜市総合福祉センター	30
福岡県	NPO法人しいだコミュニティ倶楽部	スポーツを通じて「喜び」「楽しさ」の拡大を！	スポーツ	特別支援学校、スポーツ団体	31
福岡県	NPO法人くるめSTEP	夏休みで子どもがかわるADHDのある子どもたちのためのサマースクール	学習等	久留米市教育委員会、久留米特別支援学校等	32
熊本県	オレンジはあと♡クラブ ツインバスケット	おもしろかけん、おもしろさんきてはいよ！	スポーツ	近隣大学、玉東町、玉東中学校	33
大分県	ギャラリー通り実行委員会	1枚の画用紙から	文化芸術	社会福祉法人・行政	34

目次

推薦者	被表彰者の名称	一言PR	活動分野	主な連携先	ページ
大分県	レッツダンスでガッツ元気の会	ダンスで心も体も元気に！！	スポーツ	大学、社会福祉法人	35
宮崎県	新富音声訳グループ「たんぼぼ」	地域社会とのつながりを！「声の広報しんとみ」	情報保障	新富町社会福祉協議会	36
宮崎県	宮崎大学ボランティアグループ「びいだま」	子どもたちに笑顔を!! with「びいだま犬」	学習	宮崎県立こども療育センター、宮崎FUN・DOG	37
鹿児島県	手話サークルてて	紡ぐ「て」と「て」が、言葉を繋ぐ。	学習 情報保障	奄美地区聴覚障害者協会	38
さいたま市	朗読ボランティア けやきの会	地域に根差した「声」の支援者	情報保障 学習		39
新潟市	大橋 靱彦	挑戦・努力・継続	学習 情報保障	社会福祉協議会、行政等	40
福岡市	NPO法人はあとスペース	みんなでスポーツにチャレンジしてみよう！	スポーツ	支援企業・団体	41
滋賀大学	滋賀大学教育学部音楽教育支援活動（滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター）	音楽を、生きる力に。	文化芸術 学習	特別支援学校、障害福祉サービス事業所など	42
北海道教育大学	サマースクールin函館	学校でも家庭でもない「第3の場」	学習 文化芸術 スポーツ	函館市教育委員会・北海道教育大学	43
大阪公立大学	大阪公立大学 ボッチャ部	ボッチャを「楽しむ」そして「支える」	スポーツ	府内の小中学校、大阪ボッチャ協会等	44
大阪大学	蔭山 正子 「ゆらいく」「こどもびあ」他	親になるための家族まるごと支援	学習 情報保障	精神障害者家族会、当事者団体	45
新潟大学	新潟大学工学部渡辺研究室	触る地図で、視覚障害者も街やニュースがわかる	情報保障 学習 文化芸術	社会福祉法人、特別支援学校、点字図書館	46
長岡技術科学大学	長岡技術科学大学・苫小牧工業高等専門学校 障がい者用競技スポーツ用具の研究開発を通じた生涯学習支援活動	スポーツ用具の研究開発を通じた学習支援活動	スポーツ 学習	長岡技術科学大学・苫小牧工業高等専門学校	47
九州共立大学	九州共立大学 アダプテッド・スポーツ研究会	ニコニコ体操教室～楽しい！できる！を大切に～	スポーツ	放課後デイサービス/保護者会	48
障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク	ダウン症児親の会「あひるの会」	今と未来とみんなをつなぐ～ダウン症児親の会	学習 文化芸術 スポーツ	行政・大学・病院・育成会	49
障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク	LOVEJUNX	世界へ「パワー」をとどける LOVEJUNX	文化芸術	公益財団法人日本ダウン症協会	50
全国特別支援教育推進連盟	どれみふぁクラブ	音楽大好き！！～みんなで演奏するとたくさんの笑顔に出会える～	文化芸術	特別支援学校、文化芸術団体	51

目 次

推薦者	被表彰者の名称	一言PR	活動分野	主な連携先	ページ
全国特別支援教育 推進連盟	小平養護・特別支援学校 同窓会	歴史を紡ぐ ～われら 小平のなかま～	文化芸術	特別支援学校、PTA、社会福祉法人	52
全国特別支援教育 推進連盟	土と色 ひびきあう世界 実行委員会	全ての作品に存在する価値を世に伝えていく。	学習 文化芸術	ダイトロン福祉財団	53
日本パラスポーツ 協会	一般社団法人日本バラサイクリング連盟	自転車を通じて、笑顔の輪を広げる！	スポーツ 学習	特別支援学校や視覚障害者向けの施設、ダウン症協会など	54
日本パラスポーツ 協会	一般社団法人日本ボッチャ協会	一緒に当たり前の社会へ	スポーツ 学習	教育関係、企業、行政	55
日本パラスポーツ 協会	一般社団法人日本車いすテニス協会	～楽しさ・奥深さ・スピード・パワー～車いすテニスの魅力を世界に届けたい！	スポーツ 学習	日本パラスポーツ協会、全国各地の車いすテニス協会等	56

「走ることが好き」が合言葉

功労者

■ 活動地

北海道士別市

■ 団体名・氏名

伴走サークル楽・RUN

■ 基本データ

継続年数	24年
活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害
主な連携先	社会福祉法人 等
団体の規模等	会員7名、賛助会員1名

活動の概要

長年にわたり、市内障害者支援施設利用者（知的障害者）を中心に、スポーツに親しむ機会の少ない障害のある方を対象にマラソン大会などで伴走活動を行っており、さらに伴走者と被伴走者（施設利用者）の交流の機会を設け、支える側・支えられる側と位置づけずに「喜びを共に分かち合う仲間」としての居場所づくりに努めている。

■ 活動内容

市内障害者支援施設利用者（主に知的障害の方）が「サフォークランド士別ハーフマラソン大会」などへ出場する際の練習及び大会当日の伴走等を行っています。

大会出場に向けての練習は、被伴走者（以下、利用者）の余暇時間に合わせ、施設職員と会員が協力し行っており、利用者一人ひとりの走力に対応できるように会員自身も積極的な個人練習に励んでいます。

個々に練習を重ね、大会直前には全員で当日と同じコースを走る「試走会」を開催し、利用者と一緒に走る機会を定期的に設けています。

また、「利用者との交流」も大切にしていることのひとつです。大会参加後には懇親会を開き、当日の大会について「ここが頑張れたね」と振り返り、走る仲間として喜びを分かち合い、親睦を深めています。

さらに、他団体へのボランティアとしての参加協力等も積極的に行っています。



写真1 士別ハーフマラソン大会～完走後の集合写真

■ 活動の経緯・体制

平成5年から障害者支援施設の要望で個々がボランティアとして伴走活動を行っていましたが、「走ることが好き」を合言葉に、「ひとりで走るよりも、みんなで走る方が楽しい」という声により、平成10年に士別市社会福祉協議会の助言により、ボランティア活動団体として発足しました。

■ 活動の効果・普及状況

伴走を通して、利用者が自信を持ち、心身の健康が促進され、地域の活動へ参加、交流する機会にもなっています。

最近ではコロナ禍で、残念ながら大会自体の開催が少ないですが、今年は3年ぶりに士別ハーフマラソンへ出場し、皆で一生懸命楽しく走り切りました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 士別ハーフマラソン大会～伴走中

絵画指導を通じた障害者の芸術文化活動の推進

功労者

■ 活動地

青森県十和田市、三沢市、七戸町、おいらせ町

■ 団体名・氏名

東 信昭

■ 基本データ

継続年数	21年
活動分野	文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校、社会福祉法人等
団体の規模等	

活動の概要

特別支援学校に勤務した際、特別支援学校の卒業生からの要望を受けて絵画指導したことがきっかけとなり、その後、21年間にわたり障害者対象の絵画指導を継続している。教え子たちは、自分のテーマで楽しく制作活動するとともに、芸術公募展に出品し、入賞することで自信をもって生活することにつながっている。

■ 活動内容

平成13年度から平成25年度まで特別支援学校の卒業生5名からの要望を受けて絵画指導を行い、平成26年度からは、自宅のアトリエで障害者を含む受講生に絵画指導（アトリエのぶ絵画教室）を実施しています。

絵画教室は、毎週土、日、月曜日に実施しており、先述した特別支援学校の卒業生5名に対しては、土曜日の午前に指導しています。

また、特別支援学校の卒業生5名とは、平成17年1月から「ムーブメント絵画展」を毎年開催しています。

さらに、平成27年9月から3か所の社会福祉法人児童デイサービスにおいて、それぞれ毎週水、木、金曜日の午後に絵画に興味のある障害をもつ児童生徒へ絵画指導を実施しています。

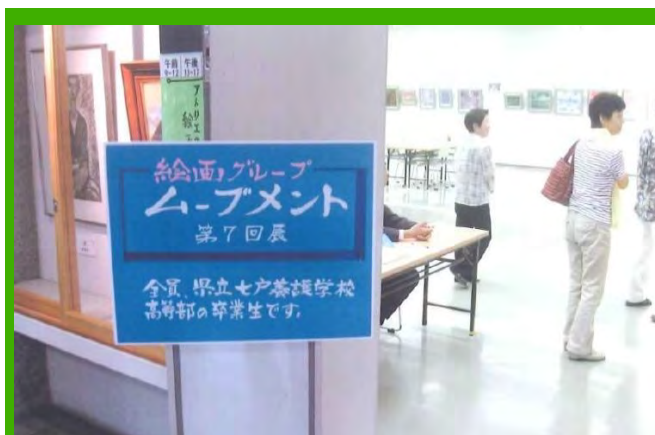


写真1 七戸養護学校卒業生によるムーブメント絵画展

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校の教員時代に、福祉就労していた卒業生5名からの要望を受けて絵画指導したことをきっかけに、継続的に障害者の芸術文化活動に取り組み、教員退職後は自宅に開設した絵画教室を中心に活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

県立七戸養護学校卒業生有志による「ムーブメント絵画展」を継続して開催したり、児童デイサービスで指導を受けている児童生徒の作品を地域の社会福祉法人のカフェで展示したりすることで、地域の方々の障害者に対する理解と障害者の芸術文化活動への関心を高めるとともに、共生社会づくりの促進が図られています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

活動の様子や公募展入選作品が新聞や広報誌に数多く掲載されています。



写真2 生徒によるコンテスト入賞作品「笑うきりん」

障害が重くても地域で豊かに暮らそう！

功労者

■ 活動地

岩手県一関市

■ 団体名・氏名

ぽけっとの会

■ 基本データ

継続年数	25年
活動分野	学習、文化芸術、情報保障
主な対象	重症心身障害
主な連携先	企業、NPO団体、行政、高等学校、特別支援学校
団体の規模等	本会員9 賛助会員260

活動の概要

重い障害のある子供たちが地域で楽しく豊かに暮らし続けることは、簡単なことではありません。医療依存度が高ければさらに難しいです。本会は、「地域の皆さんに障害に関心をもってもらい、一緒に学んでいただく」ことを念頭におき、本会員と地域で支援して下さる賛助会員の皆さんとともに、25年間障害理解促進のための活動を続けています。

■ 活動内容

地域の皆さんに、重い障害のある子供たちの存在や、その子供たちが抱える問題について知ってもらい、応援していただくことを目的に、一関市の委託事業として研修を開催しています。

研修の内容は、①防災をテーマとした医療的ケア児・者の支援に必要な災害時の知識や、電源の確保など発災時の対応について学ぶ研修会②重い障害をもつ人たちのコミュニケーションツールとしてのICT機器の活用について学ぶ研修会③重い障害をもつ子供たちに必要な訪問医療を考える、訪問診療医のお二人の先生による対談④医療的ケアの必要な重い障害をもつ方々が利用するグループホームの職員による講演会など、本人・家族、福祉関係者のみならず、地域の皆さんの参加を得ながら、障害の理解促進のため継続的に取り組んでいます。

その他、ボランティアの方々との交流を通じてお互いを知る「ふれあいたいむ」等、楽しくコミュニケーションを図りながら、学んでいます。



写真1 総会・ふれあいたいむの様子

■ 活動の経緯・体制

子供たちが特別支援学校を卒業した後も、通所施設に通いながら、地域で楽しく豊かに暮らし続けてほしいと願う親たちで立ち上げた会です。行事や会報により、親以外に子供たちを支援して下さる賛助会員や登録ボランティアの理解を得て、ともに様々な活動を支えていただいたおかげで、25年続けることが出来ました。

■ 活動の効果・普及状況

「からだの学習会ふあふあ」では、子供たちの身体の悩みへの対処を親子で一緒に学ぶことにより、子育てへの前向きな気持ちを再確認することができています。地域の皆さんにも参加いただく研修会では、重い障がいの人たちへの理解を得ることで、応援して下さる方が増える機会となっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

ぽけっとの会のFacebookページはこちら
<http://www.facebook.com/pokettonokai>



写真2 からだの学習会ふあふあ（zoom）の様子

地域ではたらく・たのしむ・まなぶ

■ 活動地

宮城県山元町

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人ポラリス

■ 基本データ

継続年数	7年
活動分野	学習・文化芸術・情報保障
主な対象	すべて
主な連携先	山元町・当事者会・地域の協力者
団体の規模等	職員8・利用者17・会員117

活動の概要

2015年に障害者支援と地域づくりに取り組むNPOを設立。設立当初から、地域の人たちと共に学ぶことを通して、障害のある人と地域の人が互いに理解し合う機会を作り社会的障壁をなくしていくこと、障害者が学びや経験を通してエンパワメントしていくことの両面に効果的な生涯学習プログラム「こぐまサロン」を実施している。

■ 活動内容

当団体の障害者就労支援活動の三本柱は「はたらく・たのしむ・まなぶ」活動です。利用者は、それぞれの障害特性による生きづらさで心のケアが必要な方が多く、最初に楽しんでもらうのがアート活動です。気力や体力を少しずつ取り戻しながら、徐々に就労訓練への意欲を持てるようになっていきます。既に就労訓練に取り組む人たちもアート活動は、とても楽しい時間です。アート活動～就労訓練を通して互いに認め合いながら自己肯定力と自己有用感を徐々に高めています。

2014年に日本が障害者権利条約を批准したことを機に、自己決定や自己選択の権利があることを当事者も支援者側も理解できるように立場を超えてこの「障害者権利条約」に関する学びを始めました。2016年には町の歴史や文化を学び、町の魅力を地域の人たちと再発見しながら、町を元気にする壁画「Happyやまのもと」デザイン制作に取り組みました。2019年からは町の施設を活用し、“学びを楽しく！「山元こぐまサロン」”を定期的で開催しています。



写真1 山元こぐまサロン「ユニバーサルな学びの場」

■ 活動の経緯・体制

東日本大震災が起こり、障害に加え被災によってディスパワーされている人たちがエンパワメントすることの必要性を感じました。2015年にNPOを設立し、障害者の生涯学習の場を継続して作っています。2019年から始めた「山元こぐまサロン」では、NPOと行政と地域が連携し、生涯学習プログラムを共創しています。

■ 活動の効果・普及状況

楽しむ事や学ぶ活動がモチベーションとなって、毎日の就労訓練にもいきいきと取り組めるようになりました。行政と連携し町内の全世帯にチラシを配布して、だれもが参加できるようにしています。2021年からはICT教育の専門家の協力を得て動画撮影した「こぐまサロン」を編集してその一部をYouTubeで配信しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

団体紹介：<http://polaris-yamamoto.com/>
活動紹介：<https://youtu.be/o6rPMm0pi2Y>



写真2 壁画「Happyやまのもと」デザイン制作

輝く笑顔！今日も元気に楽しもう！

功労者

■ 活動地

宮城県気仙沼市

■ 団体名・氏名

気仙沼市障害者スポーツ協会

■ 基本データ

継続年数	10年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	身体障害者福祉協会、卓球バレーボール協会等
団体の規模等	会員 25

活動の概要

障害者スポーツの普及・振興を図るとともに、地域に暮らす障害者のみならず、高齢者の社会参加の推進に寄与することを目的とし、卓球バレーを主としたスポーツ教室を実施して会員の健康増進に努めるほか、老人クラブでの指導、他紙との交流大会も実施している。

■ 活動内容

障害者スポーツの普及・振興と地域に暮らす人々の社会参加に寄与するために、卓球バレー、ポッチャを中心に、障害の有無や年齢に関わらず参加できる活動を行っています。

障害者スポーツ教室については週1回開催し、卓球バレー、ポッチャ、フライングディスクを中心に会員の健康増進に努めています。また、市内老人クラブでの卓球バレーの指導や、他市との交流大会の実施のほか、市体育協会健康まつりではポッチャや卓球バレーの体験教室の開催、地元小学校での体験授業、公民館事業ちびっ子大学への協力、障害者・高齢者軽スポーツ教室の主催など人と人をつなぐ活動に取り組んでいます。

伐採され不要となった桜の木を乾燥させ、手先の器用な会員が作製したラケットを使って、県卓球バレー交流大会などをはじめ各種交流大会に出場しています。全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」オープン競技卓球バレー交流大会（R4.10）では第3位に入賞しています。



写真1 月例障害者スポーツ教室の様子

■ 活動の経緯・体制

障害者スポーツの普及・振興を図るとともに、地域に暮らす障害者・高齢者の社会参加の推進を図るために、平成24年3月に協会を立ち上げました。障害者の交流促進のため、市障害者福祉協会や宮城県卓球バレー協会と連携して活動しています。会長はじめ協会役員が円滑な活動運営に努め、活動10年目の節目を迎えました。

■ 活動の効果・普及状況

週1回の障害者スポーツ教室に常時15名程度の参加があり、障害者の健康増進に寄与しています。また、市内老人クラブの会合に出向き、軽スポーツの体験教室を開催したり、一関市や大船渡市との卓球バレー交流大会を実施して、他団体の方々との交流を深めています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」オープン競技卓球バレー全国交流大会第3位！



写真2 全国障害者スポーツ大会の様子

あきた ワンツ だふる ボッチャ

功労者

■ 活動地

秋田県

■ 団体名・氏名

秋田県ボッチャ協会

■ 基本データ

継続年数	11年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	社会福祉協議会、障害者スポーツ協会など
団体の規模等	43名（役員・指導員ほか）

活動の概要

ボッチャ競技の定期的な練習会や交流大会を行い、障害者が日常的に集いスポーツや交流に取り組める生涯学習の拠点づくりに努めている。また、公共施設や民間企業などとも連携し、様々な機会に体験教室やPRイベントを行うことで、ボッチャ競技や障害者スポーツに対する県民の理解を深めている。

■ 活動内容

秋田県ボッチャ協会は、誰でも気軽に楽しめるボッチャ競技の普及・振興を進めるため、秋田県の全域で活動を展開しています。

自主事業としては、月2回の定期研修会（練習会）をはじめ、各種研修会や交流大会を主催しており、障害者が日常的にボッチャ競技に取り組める機会を作っています。

また、ボッチャ競技の振興のため、関係機関や団体と連携し、各種障害者スポーツ教室・大会、特別支援学校総合体育大会などに、講師・審判・選手を派遣しています。

さらに、秋田県内で行われる各種イベント等での体験ブースの出展や、公共施設（県生涯学習センター）での体験会の実施を通じて、県民のボッチャ競技や障害者スポーツへの理解が深まるように努めています。

こうした活動をホームページやFacebookページ、リーフレットなどで広く紹介し、活動を周知しています。



写真1

秋田県ボッチャ交流大会

■ 活動の経緯・体制

当初は有志によりボッチャを通じた交流会などを行っていましたが、平成23年度に秋田県ボッチャ協会を設立し、ボッチャ競技の普及啓発や競技力向上を目指して活動するようになりました。会員数は43名で、県北・県央・県南ごとに普及部担当を置き、全県域での普及を目指して活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

各種大会や講習会等への講師・審判員の派遣は、年を追うごとに増加しています。依頼も社会福祉団体だけでなく、教育委員会や学校、民生委員など多様化していて、裾野の広がりを実感しています。

イベントでの体験ブース設置などにより、一般の認知度も高まってきました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

Webページ <https://bocciaakita.wordpress.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/akita.boccia/>



写真2

商業施設での体験ブース

耳に届け！ 響け心に！～声のちから～

功労者

■ 活動地

茨城県土浦市

■ 団体名・氏名

土浦朗読の会

■ 基本データ

継続年数	48年
活動分野	情報保障・学習
主な対象	視覚障害
主な連携先	社会福祉法人・図書館
団体の規模等	会員数58名

活動の概要

視覚に障害のある方々へ音訳を通して情報提供を行うとともに交流会を開催して親交を深めている。また、福祉ボランティア活動への参加・協力、音訳のための勉強会の開催、会員相互の交流を継続して行っている。

■ 活動内容

音訳を中心としたボランティア団体として、「声の広報つちうら」「声で届ける社協だより」の制作、茨城県立点字図書館からの依頼による「録音図書」の制作、外部からの依頼図書や月刊「世界」の音訳などを行っています。会員は4つのグループに分かれて、それぞれリーダー、サブリーダーを中心に活動しています。さらに、自分たちで記事を集め取材をして原稿を書き、CDを制作する声のマガジン「リッチボイス」を年3～4回発行しており、視覚障害の方々毎が毎回楽しみに待っています。聞く人に届くような読み方はなかなか難しい作業であり、会員は毎月行う勉強会において技術の向上を図っています。

また、視覚障害者への理解を深めるために、毎年、交流バス旅行やクリスマス会を開催してきました。コロナ禍で2年間は実施できませんでしたが、今年は「秋の交流会」として、落語や講談を聞いたり、歓談や近況報告を行ったりと楽しいひと時を過ごしました。



写真1 視覚障害者との秋の交流会

■ 活動の経緯・体制

昭和48年10月に「土浦点訳の会朗読グループ」として発足し、その後、昭和63年に「土浦朗読の会」と改名して来年50周年を迎えます。会員の音訳技術の向上のために音訳指導者の資格を持つ会員が勉強会係となって勉強会を開催し、その他録音図書係や機器係などの役員が会の運営を担い活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

毎年30冊程度の録音図書を制作し、茨城県立点字図書館に納めるとともに一部はサピエ図書館にもアップされて、視覚障害者に広く利用されています。また、声のマガジン「リッチボイス」も好評を得ています。毎年開催されている「音訳ボランティア養成講座」の受講者が土浦朗読の会に入会し、今年度の入会者は10名でした。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<http://www.corabono.com> または
<http://www.doshakyo.or.jp>



写真2 広報の収録の様子

ともに学び、ともに飛躍を！

功労者

■ 活動地

群馬県太田市

■ 団体名・氏名

太田点訳奉仕の会

■ 基本データ

継続年数	47年
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害者
主な連携先	太田市・社会福祉協議会・視覚障害福祉協会
団体の規模等	25人

活動の概要

発足以来47年にわたり市や社会福祉協議会と連携し、視覚障害者に向けて通知文、文書・書籍等の点訳を行っています。また、一般市民向けの初級・中級点訳奉仕者養成講座の運営を行うと共に、市内の小中学校で点字教室を開催し、視覚障害への理解を深める場を提供しています。

■ 活動内容

『視覚障害者の文化向上に寄与すると共に、視覚障害者の理解と社会福祉に貢献することを目的とする』を基本として活動を続けています。

まず、視覚障害者の情報保障のために行政から依頼された書類・広報の点訳を行っています。また、文化・福祉向上を目的に依頼された書籍の点訳、会独自の文学や歴史書など多様なジャンルの点訳のほかに、太田市の行事を紹介したオリジナル点字カレンダーの製作を行い、配布しております。

この活動をさらに推し進めるためには点訳奉仕者の育成が必須です。社会福祉協議会が企画する点訳奉仕者養成講座の運営を行い人材育成に力を注いでいます。更に点字の理解を広げるため小・中学校で点字教室を開催しながら、市で開催するイベントで点字体験コーナーを設け、視覚障害への理解を深める活動を推し広げていきます。今後ますます多様化する点訳の要望に応えるため会では月に2回、情報交換と勉強会を開催し、点訳スキルの向上を目指しています。



写真1 点字カレンダー製作風景

■ 活動の経緯・体制

昭和49年に活動を開始、発足当初は手探りしながら市・社会福祉協議会と協議を行い、点訳養成講座を開催して点訳奉仕者の育成に努めました。今後もこの活動に重点を置き、更に小・中学校で行う点字教室の充実を目指します。また、会員同士は活動をサポートしあい点訳スキルを向上させ、点字図書の実用を目指しています。

■ 活動の効果・普及状況

依頼を受けた点訳を効率的に提供できるように、ソフトや機器を活用した体制を構築して視覚障害者の文化向上に貢献しました。生活と密着したオリジナル点字カレンダーは、評価も高く依頼数が増えています。また、小・中学校の点字教室の内容は視覚障害の理解を深める機会を提供していると好評を得ています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 小学校での点字教室

一緒に学ぼう、遊ぼう、みんなの「学び舎」で！

奨励者

■ 活動地

千葉県我孫子市

■ 団体名・氏名

学び舎コホミン

(我孫子市湖北地区公民館)

■ 基本データ

継続年数	2年
活動分野	学習 スポーツ 文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校 大学 行政（その他）
団体の規模等	指導者15名 受講者20名 大学生15名

活動の概要

特別支援学校等の卒業生を対象に、多岐にわたる生涯学習講座を2か月に1回以上の頻度で実施しており、障害者の生涯学習の機会を多く創出し、継続的な学びに高い成果を上げている。「学び舎コホミン運営協議会」が事業の企画、公民館職員が各講座の運営、大学生が障害者への支援を行うことで持続可能な仕組みを構築している。

■ 活動内容

地域の公民館が、特別支援学校等の卒業生の学びや仲間づくりができる居場所になることを目指して取り組んでいるのが「学び舎コホミン」です。自然体験学習、パラスポーツ、落語や音楽鑑賞など、いろいろな内容の講座を開催しています。

令和2年9月に、5名の受講者が参加してリズム遊びを行うことからスタートしました。令和3年度からは活動を広げ、クッキー作り、ゴールボールなどのパラスポーツやダンス、リズム遊び、落語や音楽鑑賞等も行っています。受講者も次第に増え20名前後が毎回参加するようになりました。土曜日の午前中に開催していること、受講者が興味のある活動を選べることはもちろん、川村学園女子大学の学生がともに活動しながら支援にあたっていることが、受講者の励みになっているようです。毎回の活動後には、学生とともにスタッフが振り返りを行い、よりよい支援や運営のために意見を出し合っています。



写真1 手賀沼公園での紙飛行機飛ばしの様子

■ 活動の経緯・体制

「卒業生が社会に出ても学び続け、仲間づくりのできる居場所を作りたい」という千葉県立湖北特別支援学校の提案をもとに、我孫子市湖北地区公民館、川村学園女子大学の近隣の3者連携による「学び舎コホミン」が令和2年に誕生しました。毎年の講座は3者の代表からなる「学び舎コホミン運営協議会」が企画しています。

■ 活動の効果・普及状況

湖北特別支援学校の卒業式の際に、卒業生全員に「学び舎コホミン」のチラシを配付したり、湖北地区公民館のホームページに掲載したりしてより多くの方々知ってもらえるようにしています。

毎年、受講者が少しずつ増え、現在は常時20名前後が受講しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<http://abikokohoku-kouminkan.jp/>



写真2 パラスポーツのチーム活動の様子

読みたい、学びたい、に応える！

功労者

■ 活動地

東京都調布市

■ 団体名・氏名

調布市立図書館 点訳者
(調布ブライユ, 点訳くすのき)

■ 基本データ

継続年数	41年
活動分野	情報保障・学習
主な対象	視覚障害者
主な連携先	行政機関
団体の規模等	30名(調布ブライユ2名, 点訳くすのき28名)

活動の概要

調布市立図書館で点訳者として登録している方々が、2つのグループで図書館資料や市の刊行物、個人資料などの点訳を行っています。この活動は昭和56年に開始されてから今日まで継続して行われ、視覚障害者の読書活動を支えています。

■ 活動内容

現在は、月に2回発行される「市報ちょうふ」、社会福祉協議会発行の「ドルチェだより」、市健康推進課発行「健康なくらしのために」、急ぎの依頼点訳などを点訳くすのきが担当し、「調布市議会だより」、社会福祉協議会発行の広報誌「ふくしの窓」の点訳を調布ブライユが担当しています。

ほかに、図書館で所蔵する地域資料の点字版や触図、市役所各課、社会福祉協議会などからの依頼文書、個人資料(図書、機器の取扱説明書、郵便物等)のリクエストにも対応します。

メンバーは、各グループで自主的に行っている勉強会の他、図書館や他団体主催の研修会等に参加し、点訳技術のスキルアップに努めています。近年は、東京都の点訳奉仕員指導者講習会等を修了した会員が講師となり、図書館での点訳者養成講座を行っています。令和2年度から3年度にかけて行った初級講座では、新しく13名の点訳者が誕生しました。



写真1 点訳くすのき 「市報ちょうふ」打ち合わせ

■ 活動の経緯・体制

昭和55年に調布市立図書館が開催した初級点字講習会の修了者によって、翌年「調布ブライユ」が誕生、その後、メンバーが入れ替わりながらも活動を続けてきました。平成7年には、当時の講習会修了者を中心に、「点訳くすのき」が発足しました。現在は、この2つのグループが調布市立図書館を拠点に活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

この活動は、長きにわたり視覚障害者の方々の読書活動をはじめとする生涯学習を支えてきました。利用者からは、御礼の言葉とともに、点訳技術に対する一定の評価をいただいています。

また、利用者からのリクエスト以外にも、市役所及び関係機関の依頼に応え、様々な点訳を行っています。

■ その他(団体紹介やホームページのURL等)

多くのメンバーは、点字図書館への協力や他のボランティア活動等でも活躍しています。



写真2 調布ブライユ 「市議会だより」打ち合わせ

作りつづけるぬくもり～さわって感じる布の絵本～

功労者

■ 活動地

練馬区立貫井図書館

■ 団体名・氏名

フェルトブック

■ 基本データ

継続年数	37年
活動分野	情報保障 学習 その他（布の絵本製作）
主な対象	視覚障害のある児童を中心にすべての図書館利用者
主な連携先	練馬区立貫井図書館
団体の規模等	11名

活動の概要

練馬区立貫井図書館で布の絵本の製作、補修を行っているボランティア団体です。布の絵本を手にする障害者や子供たちのため、ひと針ひと針心を込めて製作しています。会員それぞれの創意工夫が詰まった緻密でありながら温かみのある作品は、図書館でも大人気です。37年にわたる活動は地域住民による地域の活性化にも繋がっています。

■ 活動内容

布の絵本は、フェルトなどの布を使って作られた絵本です。布の絵本には、ひもやファスナー、ボタンなども使われていて、取り外したりすることがもできるものもあります。もともと、布の絵本は、視覚障害をもつ子供のための絵本として始まりましたが、現在ではすべての子供たちに利用されています。

布の絵本製作団体フェルトブックは毎週水曜日に貫井図書館の視聴覚室で活動しています。会員が選んだ絵本やオリジナルのストーリーのものを題材にして、1ページ、1ページ手縫いで製作しています。製作された布の絵本は現在102冊で貫井図書館に所蔵されています。貫井図書館では年1回「布のえほんフェア」を実施し、フェルトブックの活動内容を紹介するとともに、布の絵本の製作行程を紹介をしています。



■ 活動の経緯・体制

昭和60年に関町図書館で実施された布の絵本講習会の参加者を中心に結成されました。フェルトブックは練馬区立図書館で活動する布の絵本製作サークルとして初めて結成された団体です。会員は初期メンバーの口コミ等で増えていき、現在、11名が活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

フェルトブックが設立された事により、練馬区の他の図書館でも布の絵本製作団体が設立されるようになり、現在、練馬区立図書館で活動する布の絵本製作団体は11団体となっています。貫井図書館で実施された布の絵本講習会では、フェルトブックの会員が講師となり、他の図書館の会も含めて新規会員の獲得に貢献しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 布の絵本製作の様子

インクルーシブな社会を作りたい！

奨励者

■ 活動地

東京都

■ 団体名・氏名

認定NPO法人 Hands On Tokyo

■ 基本データ

継続年数	13年
活動分野	学習 スポーツ 文化芸術 その他
主な対象	スペシャルニーズのある方を含むすべて
主な連携先	NPO法人、社会福祉法人等
団体の規模等	登録ボランティア数 2300名

活動の概要

私たちは、ボランティア活動を通じて、スペシャルニーズの方（特別な支援を必要とする方）たちをサポートをしています。主な活動は、知的障害や発達障害のある方とのスポーツや楽しいイベントを通じた交流、パソコン教室、英会話、視覚障害のある方のための英会話、テニス、ジョギングなどです。

■ 活動内容

定例のプログラムでは、知的障害・発達障害のある方とのスポーツ、パソコン教室、英会話、視覚障害のある方のための英会話、テニス、ジョギングなどでのボランティア活動を、それぞれ毎月1～3回実施しています。2021年には、クラフト作り、アート、競技チアを楽しむ活動を新たに開始しました。

2018年にスタートしたパソコン教室は、生活の中でパソコンを利用する機会が増えたことから、プログラムへのニーズが高まっています。このプログラムは、講師がリードし、ボランティアは、受講者が楽しく学べるように支援します。受講した方からは「パソコンの操作への不安がなくなった」「ボランティアさんと一緒にだと楽しい」という声をいただいています。

また、2017年に立ち上げた「LIVES プロジェクト」では、障害のあるなしにかかわらず、個性を活かしながら就労できる環境を整えていくために、社会への働きかけを行っています。



写真1 ボランティアのイベントでのダンス

■ 活動の経緯・体制

障害のあるお子さんの保護者の方の「障害のあるなしにかかわらず、いろいろな方と交流する機会が欲しい」という要望から、スペシャルニーズの活動が始まりました。スポーツ、英会話、PC教室、イベントなどを通じて、スペシャルニーズの皆さんとボランティアの皆さんが、楽しみながら交流できる活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

活動に参加を希望するボランティアの数は増えており、キャンセル待ちになるプログラムも増えてきました。参加したボランティアの方からは「普段の生活の中で、障害のある方への声かけが自然にできるようになった」「ダイバーシティ・インクルージョンを"自分ごと"として考えるようになった」という声が届いています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

活動の詳細はホームページでご案内しています！
<https://www.handsontokyo.org/>



写真2 パソコン教室

“みんなに支援、”みんなで支援！！”

功労者

■ 活動地

神奈川県

■ 団体名・氏名

鈴木 秀雄

■ 基本データ

継続年数	58年
活動分野	学習、スポーツ、文化芸術、情報保障、その他
主な対象	すべて
主な連携先	一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会
団体の規模等	

活動の概要

障がい者の生涯学習支援として、日本赤十字社奉仕活動、安全事業、(公財)日本自然保護協会等での多方面・多領域において、指導者養成・育成、普及・推進を約60年にわたり実施している。

■ 活動内容

障がい者生涯学習支援としての関わりの開始は、大学1年からです。多領域での関わりを続けてきた最たる理由は、障がい領域の広がりそのものからです。その広がりから多方面での資格取得、団体・行政への関わりを深め、1981年の国際障害者年からも、野外活動領域等に於いて障がい者の社会参加を進めてきています。

現在も、県や市スポーツ推進審議会委員をはじめ、一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会会長等を務め、オリンピックレガシーとして、“みんなにスポーツ、みんなでスポーツ”を掲げ、障がい者の生涯学習支援に携わり、1964年から60年にさしかかる活動を行っています。

多くの方々からの御協力あつての今までであり、これからでもあります。皆さんに心からの感謝をしています。



写真1 障がい者スポーツ大会での黒岩神奈川県知事・選手との懇談

■ 活動の経緯・体制

学生時代に母が半身不随となり病床に伏した頃から、日本赤十字社の安全事業に携わり、その活動が看病の傍ら他の領域に広がりを見せました。

その後、多くの協会や団体を運営する立場となり、様々な折に障がい者の生涯学習活動支援の体制づくりに努めています。

■ 活動の効果・普及状況

現在、一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会会長として、障がい者スポーツの普及・啓発及び競技力の向上に取り組んでいます。

長年の活動で得た障がい者の生涯学習活動に関する知識やノウハウ等を活用し、障がい者スポーツに携わる人材の育成、スポーツの裾野の拡大につなげています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会
<https://kanagawa-parasports.or.jp/>



写真2 日本赤十字社の安全事業の講習会

1人ひとりが主役 バasketボールを楽しもう

功労者

■ 活動地

神奈川県

■ 団体名・氏名

神奈川県FIDバスケットボール連盟

■ 基本データ

継続年数	32年
活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害者を中心としたスポーツ愛好者
主な連携先	社会人クラブチーム、特別支援学校
団体の規模等	会長1、役員7、理事12

活動の概要

- ・ 知的障害者バスケットボール大会主催
- ・ 全国障害者スポーツ大会選手派遣
- ・ 全国障害者スポーツ大会派遣選手 育成合同練習会（5～6回/年）
- ・ バスケットボールクリニック(普及講習会)

■ 活動内容

今年で33年目となる知的障害者バスケットボール大会を毎年5日間開催しています。社会人クラブチーム、特別支援学校バスケットボール部、一般高校バスケットボール部、一般社会人クラブチーム等、都内など県外からも参加し、障害のある人と障害のない人の交流を行っています。一般のチームと対戦すると大差で敗れることはあるものの、大会を通じて、他のチームのプレイや指導者、選手から得るものが多くあります。

また、選手の強化育成と普及を目的として、現役のプロ選手や元選手の協力を得て練習会やクリニックを実施してきました。

インクルーシブ教育という言葉が知られる以前より、障害の有無にかかわらず、共に家庭、職場、余暇のバランスの取れた生活が送れるよう働きかけてきました。

大会の開催以来、会場の体育館を利用させていただいている企業や対戦チームの皆さま、全てのバスケットボール関係の皆さまに大変感謝しております。



写真1 主催バスケットボール大会の様子

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校卒業生のバスケットボールクラブチームの交流と技術力の向上、生涯スポーツの機会の提供、関係者の能力の向上を目指して連盟を設立しました。活動の一つとして大会等を開催していますが、一般のバスケットボール関係者にも知的障害のある人々のバスケットボール活動の理解を求めています。

■ 活動の効果・普及状況

特別支援学校を卒業した人たちが、余暇活動の一つとして高校生時代に係ったバスケットボールを継続的に続けることができている。バスケットボールの普及や技術の向上だけでなく、関係するスタッフがチームを超えて卒業後のアフターフォローの必要性も考え、相談役としての役割も担っています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 練習会の様子

健常者、障がい者の境界を“あいまい”に！

ー車いすバスケットボールサークルー

功労者

■ 活動地

富山県射水市

■ 団体名・氏名

車いすバスケットボールサークルREAL

■ 基本データ

継続年数	15年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	放課後等デイサービス、障害者福祉事業所等
団体の規模等	指導者1名、メンバー約20名

活動の概要

放課後等デイサービスや障害者福祉事業所の利用者との交流を主とした短期大学のエンパワメントサークルです。年齢、障がいの有無等の垣根なく、車いすバスケットボールを通し、先輩から引き継いだ「力を引き出す」「楽しむ」という思いをモットーに健常者と障がい者が共に楽しんだり、交流したりする場を提供しています。

■ 活動内容

サークル活動では、放課後等デイサービスや障害者福祉事業所等の利用者との車いすバスケットボールを通じた交流会をメインの活動としています。車いすバスケットボールは、通常のゴールに加えて1.2mの低いゴールを用いるツインバスケット方式で、ミニバスケットボール用の小さいボールを使うため、力の弱い方、上肢にも困難のある重度障害者でも楽しむことができます。車いすの操作やドリブルなど、難しいスキルが必要となりますが、メンバーが参加者に合わせて動きのサポートをしたり、ゲーム設定したりして、参加する人みんなが楽しみ、満足感、充実感をもてるように、互いのエンパワメントを意識し活動を行っており、メンバーとの一体感、互いを思いやる気持ち等が交流の充実につながっています。近年、コロナ禍で交流会の実施がなかなか実施できませんでしたが、今年は久しぶりに交流会を実施し、参加者のみんながエンパワメントを高めています。



写真1 交流会での車いすバスケットボールの様子

■ 活動の経緯・体制

指導者である大学の先生とのつながりと、学生たちが健常者と障がい者の境界を“あいまい”にしたいという思いから、2007年に車いすバスケットボールサークルを立ち上げました。現在は、先輩方の思いを引き継ぎながら、大学生十数名を中心とし、卒業生も加わって活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

車いすバスケットボールを通して、健常者と障害者が共にスポーツを楽しみ、スポーツを通して達成感を味わうことで、仲間との一体感や社会参加への自信が育まれており、生涯学習、共生社会の具体的な一つの形として、参加者一人一人の大切な生活の一部となっている。活動を知り、交流を希望する事業所も増えてきている。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 交流会の集合写真

みんな仲間だ！元気にスポーツを楽しもう！

奨励者

■ 活動地

福井県越前市

■ 団体名・氏名

NPO法人越前市障がいスポーツクラブ

■ 基本データ

継続年数	6年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	行政、小学校、社会教育関係団体等
団体の規模等	会員数160名（役員・指導者23名）

活動の概要

障がいのある人や地域住民が障害のあるなしに関係なく、継続的にスポーツをする環境をつくることを通して、健康づくり・仲間づくり・生きがいづくりを行い、地域参加や心温まる居場所づくりと自分の可能性に挑戦することの楽しさを実感できるような社会を目指すことを理念として活動している。

■ 活動内容

障がい者スポーツを中心に様々な種目のスポーツ教室を基本、週1回定期的開催しています。種目的にはソフトバレー教室・卓球教室・フライングディスク教室・ボッチャ教室やモルックなど行う今立教室・スポーツ遊び塾教室・ニュースポーツ教室・卓球バレー教室・スティックリング教室・王子保ボッチャ教室・ラージボール卓球教室などを行っており、春と秋には「障がい者スポーツまつり」を開催し、通常の活動に参加していない方々との交流を図っています。福祉車両を導入（丸紅基金／2020年度助成）して送迎サービスを実施し、活動に参加しやすい環境をつくっています。クラブのホームページや印刷物を作成し、活動普及にも努めています。

また、負担が軽く、難易度の低いという障害スポーツ（ニュースポーツ）の特性を生かして、地域の高齢者活動団体とも連携し、高齢者世代のスポーツ推進も同時に推進しています。



写真1 ボッチャの種目で使われるトランプス

■ 活動の経緯・体制

現理事長らが地元の総合型地域スポーツクラブの役員をしていたとき、障害者がクラブの活動に関わりづらい状況にあることに問題意識を持ちました。そこで、市内全域を活動範囲とする障害者中心のスポーツクラブ設立の必要性を訴え、団体の設立に至りました。理事及び指導者が中心となり、各事業を分担して推進しています。

■ 活動の効果・普及状況

障害のある人のスポーツには専門知識と経験を備えた指導者の存在が重要であり、日常的にスポーツを行うことは困難が伴います。この団体の存在は非常に貴重であり、参加者及びその家族等から喜ばれています。イベント「障がい者スポーツまつり」では市外地域からも参加を呼び込み、活動の場を広げています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

ホームページはこちら <https://shospo.jp>



写真2 スティックリング教室の1コマ

いつでも、どこでも、みんなが笑顔！

奨励者

■ 活動地

福井県内

■ 団体名・氏名

福井県卓球バレー協会

■ 基本データ

継続年数	7年
活動分野	スポーツ、学習
主な対象	すべて
主な連携先	行政、ライオンズクラブ等
団体の規模等	役員3名、指導者44名

活動の概要

卓球バレーを県内で普及させるために、講座や体験会、大会運営などの活動を行っている。活動の際は、依頼者の希望先に出向く出前形式（大会は除く）をとることで、障害者の移動問題を解消し、日頃慣れた場所による安心感をもって参加できるようにしている。また、指導者養成講習会を開催して活動の担い手を増やす取組も行っている。

■ 活動内容

障害の種別や年齢、性別を問わず1チーム6人でプレーできるユニバーサルスポーツ「卓球バレー」を県内で普及させるために、講座や体験会、大会運営などの活動を行っています。体験、イベントでは、依頼者の希望先に専用用具持参で出向き、ルール説明からゲーム実践まで行います。活動場所は、学校、施設、公民館、地域の集会場など多岐にわたります。大会は、冠大会を中心として行政や市民活動団体、新聞社などと連携して開催し、開催告知、参加受付、大会運営プログラム、審判まで行います。

レクリエーションとしての取組の際は、主催者の開催目的と参加者の状態にあわせ「楽しむ」という点を大事にし運営しています。参加している対象者の年齢層は10代から90代と広く、生涯にわたり取り組めることを実証しています。障害の有無を問わない参加条件から、大会では対象者の家族や介護者もチームの選手として対等な関係性で一緒に楽しむなど、共生社会への推進にも寄与しています。



写真1 大会風景（盲導犬もメンバーの一員）

■ 活動の経緯・体制

2018年に福井県で開催された全国障害者スポーツ大会のオープン競技に申請し採用されたのを契機に、協会を設立して本格的な活動を始めました。独自運営以外に行政、社協、一般企業から大会開催の連携や場所の提供支援を受けながら活動しています。大会では、一般、企業、学校等からのボランティア協力も得ています。

■ 活動の効果・普及状況

2018年の福井大会には福井県からは19チーム198人が参加。大会終了後もチーム数は減ることなく、単発的な参加でなく大会に参加することを目標に日常も練習を行うなど、継続的な活動につながる生きがいづくりに貢献しています。また、協会では、大会参加はせず自分達だけで楽しむ事への支援も大切にしています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

体験ご希望の方は、遠慮なく福井県卓球バレー協会事務局までご連絡ください。



写真2 練習風景（年齢は関係なく、一緒に）

楽しく！笑顔で！苦手なことにもチャレンジしてみよう！

功労者

■ 活動地

静岡県島田市

■ 団体名・氏名

総合型地域スポーツクラブ プラスワン
「チャレンジ教室」

■ 基本データ

継続年数	10年
活動分野	スポーツ・学習
主な対象	すべて
主な連携先	行政・スポーツ推進委員会
団体の規模等	事務局1名、指導者16名、参加者（親子）22名

活動の概要

障害があるため普通の運動が思うようにできず、スポーツ少年団等にも入ることができない子供たちのために、運動不足の解消やこれから運動ができるようにすることを目的に教室を行っている。行政、スポーツ推進委員会、外部指導者が連携し、定期的な教室開催を長年にわたり継続している。

■ 活動内容

体操を楽しみ、苦手なことにも挑戦していく気持ちを育もうと、障害児のための運動・体操教室を、年間約24回開催しています。近隣の特別支援学校や市内の特別支援学級に在籍の児童生徒及び保護者が参加し、マットや鉄棒等の体操やニュースポーツを楽しみながら活動しています。

本活動を通して、子供の運動不足が解消され、運動能力の向上を図るとともに、親子体操による親子のスキンシップ等によって、子供と保護者の心の安定を図っています。また、指導体制として、保育士資格や教員免許、子ども身体運動発達指導士等の有資格者が、障害児との接し方等の専門性を向上させる研鑽を積み、参加者に寄り添った指導を実践しています。

そのほかに、総合型地域スポーツクラブと行政や地域が連携協力し、持続可能な充実した活動を実施することで、障害児やその保護者に地域における学びの機会の保障に寄与しています。



写真1 集合写真（参加者と指導者）

■ 活動の経緯・体制

平成19年秋頃、「障害のある子供たちを対象にした運動教室を開いてほしい」という保護者の声を受け、教育委員会や市福祉課の協力のもと、同年11月に「チャレンジ教室」がスタートしました。平成24年4月から総合型地域スポーツクラブ プラスワンに加入し、継続した活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

障害児とその家族の居場所として重要な役割を果たし、平成19年から約200家族に学びの機会を提供してきました。保護者からは「自宅で一緒にできる運動がたくさんあって良い」などの感想が聞かれ、教室以外の時間でも気軽に運動に取り組む機会が増え、障害児やその家族の運動習慣づくりに貢献しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

島田市総合型地域スポーツクラブ「プラスワン」HP
<https://www.plusone-sc.com/index.html>



写真2 教室の風景

点訳で寄り添う あなたの暮らし

功労者

■ 活動地

愛知県知多市

■ 団体名・氏名

点訳サークル てんてん

■ 基本データ

継続年数	32年
活動分野	情報保障・学習
主な対象	視覚障がい者
主な連携先	市、社会福祉協議会、図書館
団体の規模等	会員12

活動の概要

視覚障がい者との交流を図り、相互理解を深めるとともに、市や社会福祉協議会が発行する広報誌や個人のニーズに応じた点訳活動を行っている。また、市内小中学校における福祉実践教室の講師や夏休みの青少年ボランティアの受入れなど、地域に根ざした活動を実施している。

■ 活動内容

市内在住の視覚障がい者への情報提供や読書環境の充実を図るため、広報誌やバス時刻表、小説、児童書、年賀状、カレンダーなど幅広い点訳活動を行っています。また、野球好きな方から「12球団の選手名鑑を2週間後のオールスターまでに点訳してほしい」という要望を承るなど、個人からの依頼で大相撲番付表や料理レシピ、バンドコンサートちらしなどの点訳も行っています。

現在は新型コロナウイルス感染症のため中止していますが、ブドウ狩りやボーリング大会などを通じて視覚障がい者との交流を図っていました。また、市内小中学校では視覚障がい者と共に講師となり、点字について年8回ほど子どもたちに教えていました。夏休みに実施している青少年ボランティア・市民活動体験事業でもボランティア体験希望者の受入れを行っていました。様々な活動を通じて、障がい者との相互理解を育んでいます。



写真1

点訳活動時の様子

■ 活動の経緯・体制

平成元年に設立し、毎週火曜日に定例会を行っています。コロナ禍では密を避けるため、自宅のパソコンで入力し、オンラインで校正を行いました。NBN（名古屋点訳ネットワーク）に登録して総会に出席したり、点字講習会に参加したりしています。

■ 活動の効果・普及状況

社会福祉協議会が実施する視覚障がい者情報提供事業において、安定した情報提供を行っています。また、市内小中学校における福祉実践教室での点字指導や夏休みの青少年ボランティアの受入れを通じて、障がい者理解を育む一助となっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

11月に、音訳ボランティアと共に活動体験事業を実施（詳細は社会福祉協議会ホームページに掲載）。



写真2

福祉実践教室：講師の様子

『継続して届けたい 音訳資料を視覚障害者に』

功労者

■ 活動地

愛知県豊川市

■ 団体名・氏名

音訳ボランティアこだまの会

■ 基本データ

継続年数	37年
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	豊川市社会福祉協議会・豊川市
団体の規模等	会員数 19名

活動の概要

- ・視覚障害のある方へ、音訳を通して情報保障に貢献しているボランティア団体
- ・視覚障害のある方との交流会、イベントでの音訳体験コーナー出展
- ・音訳ボランティア養成講座（豊川市社会福祉協議会主催）の運営補助（ほか）

■ 活動内容

豊川市社会福祉協議会・豊川市と連携し、視覚障害のある方へ、大切な情報を声で届けています。

主な音訳物は、「社協だより」と「広報とよかわ」を始めとした官公庁広報紙です。団体発足の昭和60年から毎月、「声のたより」として、会員の興味のある話題を音訳して、CDやテープを作製し、視覚障害のある方へお届けしています。

また、録音、校正など毎月の当番を決めて、豊川市社会福祉会館「ウイズ豊川」の録音室や会員の自宅にて音訳作業をしています。活動開始当初は、カセットテープへの録音・編集でした。現在は、DAISY録音・編集作業により、CDとカセットテープを作成しています。

完成した音訳資料は、会員が直接ご利用者のご自宅に届けたり、郵送しています。



写真1 2018年開催 交流会の様子

■ 活動の経緯・体制

発足は昭和60年4月です。創設メンバーは、朗読中心に活動する方々でした。

昭和60年7月に「声のたより（第1号）」を発行して、現在に至ります。

平成16年には、会員数は45名となりましたが、高齢化や家庭事情により現在は19名に減少しています。

■ 活動の効果・普及状況

音訳利用者（27名）※令和4年10月1日現在

【内容】

広報とよかわ、豊川市議会だより、とよかわ・ボランティア市民活動センターだより、広報あいち、声のたより⇒視覚障害のある方の情報格差縮小に役立っています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

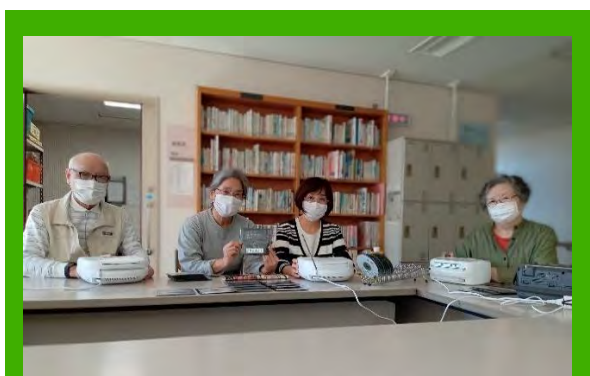


写真2 2022年11月広報とよかわ編集の様子

聴覚障害者と共に歩む

功労者

■ 活動地

兵庫県淡路市

■ 団体名・氏名

手話サークル津名

■ 基本データ

継続年数	35年
活動分野	情報保障・学習
主な対象	聴覚障害
主な連携先	手話サークル津名
団体の規模等	サークル会員36名

活動の概要

障害のある人々の完全な社会参加と共生社会の実現を目指して、体験学習や交流会を定期的に主催し、学びの機会を提供している。聴覚障害者とともに手話を学びながら、地域行事や放課後子ども教室などで手話教室を開催し、手話や聴覚障害者理解に関する啓発を行うとともに、当事者団体主催行事などで情報保障の取組も行っている。

■ 活動内容

週1回の定例会では手話の学習とともに「ろうあ運動」「手話言語条例」などの講演「外出レクリエーション」「クリスマス会」など、手話で情報を得て交流できる場として毎回多数の聴覚障害者に参加いただいています。「放課後子ども教室」「手話サロン」では地域の方との交流を通じ聴覚障害者の生活・文化についての理解やろう者の言語である手話を広める取り組みをおこなってをいます。いずれもサークル員が協力し合って社会情勢や聴覚障害者のニーズに合った内容を考え準備を進めています。

また、県下・全国の聴覚障害者団体や支援団体とともに「聴覚障害者を差別する法令の改正を目指す署名運動」や高齢聴覚障害者施設「淡路ふくろうの郷」での手話通訳支援、建設当時の支援運動・募金活動、「手話言語条例制定を求める請願活動」など、聴覚障害者をはじめ障害を持つ人々の完全な社会参加と平等の実現、共生社会の実現を目指して聴覚障害者と共に活動しています。



写真1

「定例会」

■ 活動の経緯・体制

聴覚言語障害者の生涯学習の場「淡路くすの木学級」を旧津名町で開催するにあたり、手話通訳のボランティアが必要となり講習会が開かれ、修了生によってサークルが発足しました。淡路聴覚障害者協会と協力しながら、兵庫県手話サークル連絡会加盟団体として県下手話サークルと連携しながら活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

地域行事での手話教室開催や、淡路市民の歌「輝く淡路市」の手話バージョンをろう者と共に制作したことによって、手話に興味を持っていただき、手話を広めることができました。また、聴覚障害者と共に、地域の行事に参加することで、身近に聞こえない人がいることを知ってもらえ、住民の障害への理解も深まっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2

「子ども手話教室」

より良い音訳をめざして半世紀

功労者

■ 活動地

奈良県橿原市

■ 団体名・氏名

奈良県音訳グループ 草笛会

■ 基本データ

継続年数	55年
活動分野	学習 情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	行政（保健、福祉部門）、特別支援学校
団体の規模等	136名

活動の概要

文学や歴史などの小説の録音図書製作のほか、県内主要駅の構内の音声案内や、暦とともに毎月の旬の奈良情報を紹介するカレンダーなどのオリジナル録音図書の製作も手がけています。また資格取得のための参考書の音訳等の依頼にも対応し、50年以上にわたって視覚障害者の学びを支援しています。

■ 活動内容

視覚に障害のある方のために、主に新刊本の小説や地域の歴史文化に関する書籍等の録音図書を製作しています。製作図書は、県視覚障害者福祉センターの蔵書として貸出しされています。

また、そのほかにもグループ活動として、安心して駅を利用できるよう、県内の主要駅構内を案内する「音声地図」や、暦とともに県内の寺社行事、季節の情報を届ける「声のカレンダー」の製作のほか、完成本のお知らせや奈良の情報誌の特集等をまとめたオリジナル録音図書「コレクション草笛」は、毎月発刊し、主に県内の視覚障害者の方にCD版でお届けしています。

資格取得のためや趣味を楽しむための参考書、特別支援学校からの資料作成などの音訳依頼にも対応しています。

勉強会の開催や関係団体が行う講習会等への参加を通じて会員の資質向上を図るとともに、音訳ボランティア養成講習会の講師を担うなど、後進の育成にも努めています。



写真1 音訳ボランティア養成講習会

■ 活動の経緯・体制

昭和41年10月に発足。県が行う音訳ボランティア養成講習会の修了者を会員として受入れ、50年以上活動を続けています。

現在は、県視覚障害者福祉センターの録音ブースまたは自宅で録音を行っています。定期的な音訳活動の他、会員同士による勉強会により技術向上に努めています。

■ 活動の効果・普及状況

製作した録音図書は、サピエ図書館等を通じて、県内だけでなく全国で幅広く利用されています。また、個人からの参考書、テキストなどの音訳依頼への対応など、知的好奇心を満たし、学習支援に寄与するとともに、視覚障害者等へ読書の楽しみ、豊かな知識の向上に寄与しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 グループ活動での打合わせ勉強会

ぼちぼちいこか！いつも笑顔の仲間たち

功労者

■ 活動地

奈良県内

■ 団体名・氏名

ぐれいとぶっだ

■ 基本データ

継続年数	28年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて（主に知的障害）
主な連携先	各種スポーツ活動団体等
団体の規模等	指導者5、会員40

活動の概要

奈良県内で活動している知的障害者のソフトボールクラブチームです。日々の練習に加え、他府県チームや地元の一般チームとの練習試合、高等学校・大学硬式野球部との定期的な交流会、スポーツ少年団の子どもたちとの合同キャンプなど、重層的なつながり作りに取り組んでいます。

■ 活動内容

たくさんの人たちと出会い、一人一人が自分の強みを生かした役割を持ち、支え合うことを通して幸せな人生を歩むことを目標にして、毎週日曜日に仲間たちが集っています。

ソフトボールという競技をツールに、練習試合や他府県への遠征、県立高校野球部との交流会、地域との合同開催による招待試合、キャンプ、スポーツ少年団のサブリーダーとして小学生の指導に携わるなど、多くの仲間たちとの出会いを求めて活動を展開しています。

活動のコンセプトは二つあります。一つ目は、未経験からくる「できない」を少なくすることで、用具の管理やグラウンド整備など、私たちのチームでは支援者は見守りに徹し、すべて選手たちが主体的に実施しています。二つ目は、様々な人たちが昔ながらの「ごちゃまぜ」で過ごせる居場所であることです。子どもからご高齢の方までが、何らかの形で活動に関わり続けられる場所になっています。



写真1

笑顔の仲間たち

■ 活動の経緯・体制

1980年代後半、高等学校卒業後に親子同伴ではなくひとりの成人として余暇を楽しむ環境が少なかった時代、同じ思いを持つ仲間たち10名から活動は始まりました。

選手会、保護者会、支援者グループがお互いのできる範囲内で役割を担い、会の運営に従事しています。

■ 活動の効果・普及状況

全国大会出場を機に国内チームの組織化を図るべく、全国の有志監督とともに「日本知的障害者ソフトボール連盟」を設立しました。それに伴い、北は北海道から南は沖縄まで、全国の仲間たちと「支え」「支え合える」つながりができ、今では年1回、東日本大会、西日本大会を実施しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

11月27日、三重県津市で「西日本大会」出場
URL <https://www.great-buddha-sbt.com/>



写真2

県立高校野球部との交流会

全員野球

功労者

■ 活動地

岡山県内 試合は県外を含む

■ 団体名・氏名

障害者野球チーム 岡山桃太郎

■ 基本データ

継続年数	38年
活動分野	スポーツ
主な対象	身体・知的障害者
主な連携先	玉野市身体障害者福祉联合会内
団体の規模等	選手・ボランティア含め35名

活動の概要

岡山県内各地で活動を行っています。障害者スポーツの実践を通して、地域の方々と親睦を深めるほか、地域社会への貢献を目指しています。また高校生による岡山桃太郎への活動支援を通して、高等学校等の学校教育機関と交流・連携を深めています。

■ 活動内容

10代から70代までの選手が在籍しています。38年前、リハビリを兼ねて体を動かそうという主旨で野球好きの数人が集まり岡山桃太郎が結成されました。現在では、全国レベルの大会の優勝連覇を狙うチームとなり、年代も障害も野球経験も様々なメンバーが切磋琢磨しながら楽しく活動しています。主に全国大会身体障害者野球大会（春の選抜）、全国身体障害者野球大会出場に向け、月2回岡山県内で練習しています。また、健常者チームとの交流試合を行い親睦を深めています。

学校や行政からの依頼を受け講演活動も行っています。数年前から交流試合を通じて親交のある県立高校野球部員の発案でクラブ職人さんに御協力いただき、個々の障害にあった使いやすい特製グラブを製作。特製グラブは桃太郎の選手にとどまらず、全国の障害者に届き喜ばれています。

岡山桃太郎の活動がきっかけとなり、野球を通じて障害者への理解や自他の人権を守る活動に繋がればと思っています。



写真1 第14回 中・四国身体障害者野球大会 優勝

■ 活動の経緯・体制

- ・1984年4月岡山県身体障害者福祉連合会青年部のソフトボールチームとして結成される。
- ・1988年日本身体障害者野球連盟加盟、身体障害者野球（軟式）に移行する。
- ・2017年全日本身体障害者野球選手権大会初優勝

■ 活動の効果・普及状況

岡山県唯一の障害者野球チームとして、全国規模の大会に出場したり、健常者チームとの交流試合を通して、親睦を深め、メンバーの身体機能の向上を図っています。

また、障害者が、生涯を通じて教育やスポーツ、文化などの様々な機会に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、活動を行っています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<https://okayama-momotaro.sakura.ne.jp/>



写真2

公式戦スナップ

つなげたい、つながりたい、みんなとできる6点字

功労者

■ 活動地

広島県三原市

■ 団体名・氏名

点訳ボランティア「てんゆう会」

■ 基本データ

継続年数	48年
活動分野	情報保障（点訳）
主な対象	視覚障害者
主な連携先	社会福祉法人，市役所，学校等
団体の規模等	37名（うち役員8名）

活動の概要

昭和49年に活動を開始し「視覚に障害のある人たちに、より多くの情報を届けたい」という思いのもと、48年間にわたってボランティアによる点訳等の活動を行っている。市と連携して広報誌や日常生活に必要な情報等の点訳を行うほか、障害者の方からの要望に応じて、生涯学習に係る各種講座の資料や書籍等の点訳を行っている。

■ 活動内容

てんゆう会では、設立当初から継続して点訳ボランティアの育成を行っています。また、てんゆう会は障害者の方と行政を結ぶパイプ役を担いながら、市の広報誌「広報みはら」の点訳を毎月行うほか、障害者の方からの要望に応じて、生涯学習に係る各種講座の資料や書籍の点訳を行っています。広報誌については、予め市から原稿の提供を受けて、手打ち又はパソコンで点訳を行い、印刷・製本したものを発行日と同日に個人や社会教育施設へ配付し、日常生活に必要な情報を遅滞なく届けることができます。また、日常生活に必要な情報が掲載された市の「かんきょうカレンダー（ごみの収集・分別）」や「社会福祉協議会だより」の点訳を行っています。

その他、年末には翌年用の点字カレンダーを作成して障害者の方や福祉施設等に配付したり、年間を通して小・中学校や児童館等で行われる福祉体験学習の講師や支援を継続して行ったりすることで、市民の障害者に対する理解促進に大きく貢献しています。



写真1 作成した点字カレンダーや各種資料

■ 活動の経緯・体制

障害者は日常生活を送ることや就労が困難である場合も多かった状況を踏まえ、視覚に障害のある方の自立と社会参加を支え、よりよい生活を支援したいという思いから、昭和49年に活動を始めました。毎月メンバーによる定例会を開催し、活動計画の立案と確認を行い、各メンバーが概ね週3～4日間程度活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

これまでに延べ331名がボランティアとして活動に携わってきました。市では、ここ数年集中豪雨や大雨等による大規模災害が発生しており、視覚に障害がある方に、点訳した市の広報誌等に掲載されている防災情報が届くことは、防災への意識を高め、自分の命を守ることにつながるため、その役割は重要になっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 小学校での福祉学習の実施

サッカーが、みんなとつながる架け橋になる！！

奨励者

■ 活動地

広島県

■ 団体名・氏名

広島県インクルーシブフットボール連盟

■ 基本データ

継続年数	4年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	社会福祉法人, NPO法人, 大学, 企業等
団体の規模等	10名(会長, 副会長, 専務理事他)

活動の概要

「サッカーがみんなとつながる架け橋になる」をテーマに、障害の有無に関わらず誰もがスポーツの価値を享受し、活力ある共生社会の創造のもと、障害者サッカーの普及に努めている。競技大会や体験会等を通じて、障害者と健常者が交流する機会を提供し、社会の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の促進を図っている。

■ 活動内容

広島県における障害者サッカーの総括団体として、連盟内に9つ(アンプティサッカー、ブラインドサッカー、電動車椅子サッカー、知的障害者サッカー、CPサッカー、ソーシャルフットボール、デフフットボール、インクルーシブフットボール普及、医事)の委員会を設置し、事業運営を行っています。

年齢やサッカー経験の有無、さらには車椅子や全盲など障害の種別に関係なく、障害者も健常者もだれもが一緒にまぜこぜになってサッカーを楽しむイベント「インクルーシブフットボールフェスタ広島」の開催をはじめ、手話サッカーやウォーキングフットボール等の様々な障害者サッカーの大会・交流イベントの開催、サッカーチームの育成支援、西日本ブラインドサッカーフェスティバル、西日本アンプティサッカーフェスティバル、西日本電動車いすサッカーフェスティバル等の数多くの全国規模の競技大会を主催するなど、精力的に活動を展開し、障害の有無や地域を越えて活動の輪を広げています。



写真1 インクルーシブフットボールフェスタ

■ 活動の経緯・体制

広島県内の各団体間の交流や情報交換の機会を設けることや障害者スポーツの社会的信頼の獲得の必要性を背景として、障害者サッカー支援のネットワーク団体として設立し、日本障がい者サッカー連盟(JIFF)等と連携しながら、障害者サッカーの国際的な普及・発展に取り組んでいます。

■ 活動の効果・普及状況

主催事業には障害の有無に関係なく、未就学年代から高齢者に至るまで4年間で延べ500名以上が参加し、障害者サッカーの普及・啓発が進んでいます。こうした活動を通じて、「障害者スポーツ」としての競技が確立されてきており、誰もが生きる原点に立ち、サッカーを通じて社会とつながるためのきっかけとなっています。

■ その他(団体紹介やホームページのURL等)

広島県インクルーシブフットボール連盟ホームページ
<https://hiff.football/>



写真2 西日本アダプテッドフットボールフェスティバル



■ 活動地

山口県

■ 団体名・氏名

山口県障がい者スポーツ指導者協議会

■ 基本データ

継続年数	30年
活動分野	スポーツ
主な対象	障害者
主な連携先	障害者スポーツ協会、短大・ボランティアサークル等
団体の規模等	会員435名

活動の概要

障がい者が、住み慣れた地域で生き生きとスポーツ活動に取り組むことができるように、障がい者スポーツを支える指導者やボランティアが、障がい者のスポーツ活動を支援するだけでなく、共に楽しめる多様な活動への取り組みを県内の各地域で行っている。

■ 活動内容

公認障がい者スポーツ指導者（以下指導者）の資格は有しているが「どう活動してよいかわからない」、「何ができるかわからない」と考えている指導者が多く、日常的に障がい者スポーツに携わっている指導者の数は少ない現状があります。そこで、活動実績の少ない指導者や障がい者スポーツボランティア（以下ボランティア）に対して活動の場を提供することにより、県内の「地域」の指導者の活動の活性化と指導者間の連携強化を図り、「地域」と結びついた障がい者スポーツの普及を図る活動を試みてきました。地域で障がい者と指導者やボランティアが生き生きと共に活動できるよう、県内を西部・東部・中央部…というようにいくつかの地域に分け、「スポーツ教室開催」、「障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの体験イベントの開催」、「アウトドアスポーツ体験の開催」、「交流イベント開催」等、それぞれの地域で特色ある取り組みを行っています。



写真1

アウトドアスポーツの体験

■ 活動の経緯・体制

平成23年開催されたに全国障害者スポーツ大会「おいでませ！山口大会」で高まった障がい者スポーツへの関心をいかに継続させ、さらに障がい者スポーツ指導者の活動の場と障がい者のスポーツ活動の場を広げていくため、お互いが住み慣れた地域で活動できるような幅広い活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

指導者を中心とした地域の指導者協議会で障がい者スポーツ体験教室や、健常者とのスポーツ交流会が開催されるようになってからは、「地域」の障がい者には、住み慣れた身近な地域で気軽にスポーツをすることの楽しさや喜びが浸透されつつあり、「地域」の指導者とのコミュニケーションも図られてきました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~yama-syospo/>
Facebook（専用ページあり：団体名で検索）



写真2

交流イベントでのひとこま

すべての子どもたちに読書体験を

功労者

■ 活動地

徳島県板野郡北島町

■ 団体名・氏名

点訳燦の会

■ 基本データ

継続年数	23年
活動分野	情報保障（点訳）
主な対象	視覚障害児
主な連携先	特別支援学校
団体の規模等	会員15名

活動の概要

パソコンを用いて、視覚に障害を持つ子どもたちを対象に点訳書を製作し、提供しています。この活動は23年継続しており、データは情報ネットワークである『サピエ図書館』にアップし、直接的には県内外の盲学校に印刷物の形で提供もしています。

■ 活動内容

「目の不自由な子どもたちにも晴眼者と同じように良い読書体験をして欲しい。」という思いで活動が始まりました。会員が集うのは月に1度の定例会ですが、点訳者、校正者という立場で助け合うことで点訳書を製作しています。「青少年読書感想文全国コンクール課題図書」を小学生から中学生用まで点訳し、全国の盲学校にデータ・印刷物等で提供しています。盲学校同士のつながりで、希望される学校が増え、今年度は27校にお送りしました。より多くの人たちに点訳書を読んでもらいたいという思いで『サピエ図書館』のボランティア会員に加入し、データをアップして、活用していただいています。

また町内の小学校において点字学習のお手伝いをしています。子どもたちはとても興味を持って点字を体験してくれています。



写真1 製作した点字図書とその梱包風景

■ 活動の経緯・体制

毎年開催される『北島町点訳講習会』の修了生が活動する場として23年前に点訳燦の会が発足しました。それ以降、切磋琢磨しつつ点訳の学習を続け、会員は各々自宅でパソコンを使って点訳書を製作しています。この23年間で点訳した本の数は15,000冊近くになりました。

■ 活動の効果・普及状況

点字を使って読書をする子どもたちの数も減りつつありますが、本当に読書が好きな子どもたちは点字書がどんなに重くても、頑張って持って帰って読んでくれます。ボランティアをする人はなかなか増えませんが、これからも多くの子どもたちに良い本を提供していきたいと思っています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 小学校での点字学習の授業風景

共に夢に向かって！！～夢は医学もこえる～

功労者

■ 活動地

徳島県鳴門市

■ 団体名・氏名

藤岡 明美

■ 基本データ

継続年数	25年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	スポーツ団体、スポーツ施設等
団体の規模等	

活動の概要

長年にわたり、障害者の卓球指導及び選手育成に尽力してきた。自身もパラ卓球選手として活躍する傍ら、豊富な選手経験を活かし、全国障害者スポーツ大会県代表卓球選手の育成・指導に関わるなど、多くの障害者へスポーツの楽しさを伝えている。

■ 活動内容

平成9年に初級障がい者スポーツ指導員資格を取得後、全国障害者スポーツ大会に出場する県代表卓球選手の指導や、卓球教室の開設など、25年にわたり、障害者スポーツの普及促進に尽力してきました。

自身もパラ卓球選手として、パラリンピック等の国際大会に出場経験を持ち、その豊富な経験と知識にもとづいた指導により、全国障害者スポーツ大会で多くの選手をメダル獲得に導きました。また、自身の「スポーツを通じた成功体験」を伝えることで、障害者の社会参加への意欲向上や生涯スポーツの振興につなげています。

平成18年4月には「藤岡スポーツ教室（卓球教室）」を開始し、地域において障害者が日常的にスポーツを楽しむ環境づくりや、卓球競技の競技力向上に取り組んでいます。

さらに、日本肢体不自由者卓球協会の副会長としても、障害者卓球競技の普及・競技力向上に努めています。



■ 活動の経緯・体制

平成9年2月に公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認初級障がい者スポーツ指導員資格を取得し、全国障害者スポーツ大会県代表卓球選手の指導を始めました。平成18年4月には、「藤岡スポーツ教室（卓球教室）」を開始し、徳島県卓球協会との連携のもと、障害の有無に関わらず、多くの選手の育成を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

卓球競技を通じて、障害者の健康の維持や体力の増強のほか、障害の有無に関わらず多くの方がスポーツを楽しむ機会を提供し、生涯スポーツにつなげてきました。障害者がスポーツ活動を通して自信を持ち、積極的な社会参加に繋がるよう、選手の育成を行っています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 全国障害者スポーツ大会でのひとコマ

やさしさと笑顔がいっぱい

功労者

■ 活動地

愛媛県新居浜市

■ 団体名・氏名

おもちゃ図書館きしゃポップ

■ 基本データ

継続年数	26年
活動分野	学習・文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	新居浜市総合福祉センター
団体の規模等	30名

活動の概要

新居浜市総合福祉センターが建設された際に、市民と行政の協働の先進的取り組みとして設置された「おもちゃ図書館きしゃポップ」。障がい児に対して手づくりのおもちゃに触れあってもらいたいという意思を持つ有志が集まり、施設にふれあい交流スペースを作り、子ども達が手づくりのおもちゃに触れ合うことで豊かな情操を育てています。

■ 活動内容

①市総合福祉センターにおいて障がい児（者）と地域の子供が交流し、手づくりおもちゃで遊び、やさしさと笑顔がいっぱいになるおもちゃ図書館を開設しています。

②毎週火曜日にメンバーが集い、手づくりおもちゃ製作に取り組んでいます。

③障がい者・児を対象とした太鼓演奏グループをつくり、練習を重ね、多様な機会に演奏を披露してきました。

④高校生の有志と協働で障がい児を招き交流するクリスマスイベントを開催してきました。

⑤障がい者・児を対象とした研修・旅行を実施し、生涯学習の場を提供してきました。

⑥最低年に一度は活動の紹介を市役所ロビー展で行ってきました。

⑦会報を作成し、障がい児の作品を市民に紹介。



写真1 おもちゃ図書館きしゃポップ会員

■ 活動の経緯・体制

平成4年に市総合福祉センターの開館に併せ、行政との協働で障害をもつ子ども達に情操を育み、交流を促進する施設として「おもちゃ図書館」をつくる提案に応じた有志が集ったことに遡ります。会員は30名程度で推移してきました。オープンな雰囲気のもと、基本的には会員全会一致をルールに、強制ではなく自由参加で活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

手づくりのおもちゃが市総合福祉センターにあることが市民に周知されるに従い、障害者と健常者の壁が低くなり、共生の文化が根付いてきています。イベントに関わった高校生が成人して活動に加わったり、障害をもつ子どもが成長し時間的なゆとりができた保護者が、小学校等で支援員として活躍したりする事例が生まれてきました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

新居浜市おもちゃ図書館きしゃポップ
（愛媛県新居浜市総合福祉センター内）



写真2 第4回おもちゃの図書館アジア会議（東京）にて和太鼓演奏

スポーツを通じて「喜び」「楽しさ」の拡大を！

功労者

■ 活動地

福岡県築上町

■ 団体名・氏名

NPO法人しいだコミュニティ倶楽部

■ 基本データ

継続年数	17年
活動分野	スポーツ・文化
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校、スポーツ団体
団体の規模等	運営委員21名

活動の概要

障害者と健常者が共同で実施する交流スポーツ教室の「ときめき教室」を開催しています。この取り組みをきっかけに障害者スポーツボランティアスタッフ養成講習会や「スポーツ屋台村」などを開催し、障害者の理解力、身体能力の向上に努めるなど地域において障害者に対する理解を深め、共生社会の実現に努めています。

■ 活動内容

総合型地域スポーツクラブとして、ソフトバレー教室やグラウンドゴルフ教室、書道教室などの定期教室を開催しています。

この定期教室内で築上町内の障害者支援施設や社会福祉法人の通所者などを対象に毎月2回「ときめき教室」を開催しています。

また、福岡県立築城特別支援学校において、いろんなニュースポーツが体験できる「スポーツ屋台村」を開催しています。

このような教室の実施にあたっては、参加者の理解力、身体能力、障害の程度がそれぞれ異なることからリスクマネジメントに気を付けています。毎回、事前にスタッフミーティングを実施し、障害者の方々がスポーツを楽しみ、一緒にその時間を有意義に共有できるよう、企画や実施種目を決定しています。

誰でもスポーツを楽しみ、喜びを感じることが出来るよう工夫を重ね、活動しています。



写真1 障害者スポーツボランティアスタッフ養成講習会「卓球バレー」

■ 活動の経緯・体制

アダプテッドスポーツプログラム研究のモデルクラブとなり平成24年5月からフライングディスク体験教室を3か月間実施しました。その後参加者から続行の希望が多くあり、現在では障害者を対象とした「ときめき教室」を毎月2回開催しています。（公財）日本パラスポーツ協会公認初級・中級指導員合計6名で教室を実施しています。

■ 活動の効果・普及状況

メディアへの発信や周辺市町を通じて、障害者スポーツを実施する上での注意事項を伝え、周辺自治体での障害者スポーツ教室の実施を推進している。地域への障がいについての理解を深め、共生社会の実現に努めています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<https://shiikomi.amebaownd.com/>



写真2 ときめき教室「オーバルボール」

夏休みで子どもがかわる ADHDのある子どもたちのためのサマースクール

功労者

■ 活動地

福岡県久留米市

■ 団体名・氏名

NPO法人くるめSTP

■ 基本データ

継続年数	17年
活動分野	学習 その他（医療・心理・教育・レクリエーション）
主な対象	ADHD等の発達障がいのある児童及びその家族
主な連携先	久留米市教育委員会、久留米特別支援学校等
団体の規模等	役員10名、事務局員1名、ボランティア50名

活動の概要

2005年から毎年夏休みに、ADHDのある子どもたちのためのエビデンスに基づく行動療法プログラムを実施しています。久留米市の医療・心理・教育の専門家が協働してプログラムを運営し、学生が主体となって活動を計画・実践しながら、子どもたちと関わっています。学生教育を通して、次世代の専門家育成を行っています。

■ 活動内容

ADHDのある子どもたち(小学生)を対象に、久留米市内の学校で、夏休み期間中の1週間(2014年までは2週間)、サッカー・水泳などのスポーツ、プリント・パソコンを使った学習、教え合い学習など学校の授業・プログラムに添った活動を行っています。ポイントシステム、がんばりカード、スポーツスキルトレーニング、SSTなどADHDの特性に合わせたシステムを取り入れています。また、同時に保護者を対象としたペアレント・トレーニングを実施しています。

子どもたちは、フィードバックを受けながら、自らの行動に気づき・振り返り、主体的に好ましい行動を増やし、好ましくない行動を減らしていきます。学生との話し合い、周囲からほめられる・認められる経験を通して、達成感を抱き、自信をもつことができます。

また、くるめSTP後のフォローアップとして、スクールカウンセラーや医療機関等と連携し、継続して本人と家族の支援を行っています。



写真1 サッカーの試合前の様子

■ 活動の経緯・体制

ADHDに対する保護者や大人の理解を促し、生涯を通じた多様な学習を社会全体で支えるため、1980年代前半からアメリカで行われているADHDのある子どもたちのための包括的治療プログラムであるSTPを日本へ導入しました。久留米市の医療・教育・心理の専門家が協働してプログラムを運営しています。

■ 活動の効果・普及状況

くるめSTPの実践は、わが国のADHDの診断治療ガイドラインに紹介されています。くるめSTPで実施している様々なエビデンスに基づく方法に関しては、出版物・論文・講演・ホームページ等で全国に発信しています。また、岐阜県各務ヶ原市・島根県出雲市の2地区でSTPが実施されました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

ホームページはこちら

<http://www.kurume-stp.org/>



写真2 保護者も一緒に一日の振り返りを聞いている様子

おもしろかけん、おもさんきてはいよ！

功労者

■ 活動地

熊本県玉東町

■ 団体名・氏名

オレンジはあと♡クラブ
ツインバスケット

■ 基本データ

継続年数	12年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	近隣大学、玉東町、玉東中学校
団体の規模等	会員数 約200名

活動の概要

障害のあるなしに関わらず、小学生から成人までの幅広い年齢層を対象として、車いすツインバスケットの活動を12年にわたり行っています。競技者の練習、集まった参加者への指導を中心に楽しく活動を続けています。子供たちには競技の他、挨拶や礼儀なども教えています。教わる子供たちは準備や片付けを手伝い、「それぞれ自分のできることを協力し合う」ことをモットーに活動しています。

■ 活動内容

オレンジはあとクラブの26ある種目の一つとして、毎週水曜日に3時間程度、車いすツインバスケットの活動をサポートしています。障害のあるなしに関わらず誰でも参加可能で、小学生から成人までの方が参加しています。

競技メンバー自身の練習だけではなく、集まった参加者と一緒に楽しく活動を行っています。活動の際には、近隣中学生・大学生がボランティアで練習の手伝いに来ています。

また、定期的に車いすツインバスケット体験を実施し、障害者スポーツに触れる機会を作り、地域の方々に楽しさを知ってもらう活動も実施しています。

活動を続けていく中で、中学生・大学生、近隣住民の日頃の協力に対し、競技メンバーから「自分たちにも何かできることをしたい」という申し出があり、町内小学校の放課後子ども教室において、ツインバスケットボール体験や講話の講師としての活動も行っています。



写真1 車いすツインバスケットの準備を手伝うボランティアの学生

■ 活動の経緯・体制

「車いすは体育館の床を傷つける」という理由で、練習場所がなかなか見つからないという状況を知った町民の方から、「玉東町の体育館でできないか」との相談がありました。障害者スポーツを受け入れ、活動をよりサポートできるように、オレンジはあとクラブの種目の一つとして受け入れることにしました。

■ 活動の効果・普及状況

障害者がスポーツに十分に取り組める環境を整備し、地域住民が誰でも参加できる活動として長年継続したことが、障害者や障害者スポーツへの理解促進につながっています。中学生が部活動中に、車いすツインバスケットの活動準備や車いすの方の手伝いをすることが当たり前の風景になっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<https://www.town.gyokuto.kumamoto.jp/list00169.html>



写真2 車いすツインバスケットの練習をしている子どもと指導する障害者

1枚の画用紙から

奨励者

■ 活動地

大分県国東市

■ 団体名・氏名

ギャラリー通り実行委員会

■ 基本データ

継続年数	8年
活動分野	文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	社会福祉法人・行政
団体の規模等	スタッフ3名

活動の概要

当団体は、「芸術のまち」と位置付けられている国東市国見町（くにさき くにみまち）の商店街（名称：ギャラリー通り）をアートで盛り上げようとしている団体。また、国東市が始めた「障害者芸術文化参画推進事業」を受託して以来、毎年ワークショップや展示会等、障害者の生涯学習に関する活動に取り組んでいます。

■ 活動内容

- ・ 作品制作ワークショップの実施
制作場所は『秀溪園』（国東市武蔵町）と『三角ベース』（国東市安岐町）という障害福祉支援施設で行っています。
- ・ ワークショップで制作した作品を展示
大分県立美術館をはじめ、国東市内のあらゆる場所で展示しています。
- ・ 作品の商品化（ステッカー）
商品化したステッカーを国東市ふるさと納税（寄付額7年連続大分県内トップ）返礼品の箱に貼付し多くの人々の目に留まるよう活用しています。
- ・ 障害者の個性を活かす環境づくり
ワークショップを施設職員と共に実施することで、施設職員の障害者芸術活動への関心を高め、個性や才能の発見に寄与しています。また、プロの市内アート作家が、障害者アートの在り方や接し方（「指導」ではなく「見守り」「補助」を行う）を施設職員に教え、障害者が個々の感性を發揮できる環境づくりを行っています。



■ 活動の経緯・体制

本団体は、平成26年より障害者アートの活動をスタートし、平成30年度に大分県開催の「国民文化祭・全国障害者芸術文化祭おおいだ大会」を契機に、障害者アートの指導者と連携できたことで、活動を深めました。その取組みが評価され、令和元年度より国東市の「障害者芸術文化参画推進事業」を受託し、現在に至っています。

■ 活動の効果・普及状況

本事業は、ワークショップを通じて発想力や表現力、集中力を養うだけではなく、障害者の鋭い感性を引き出し・伸ばすことで、障害者が地域社会に参画し、収入を得ることに繋がるものであり、障害者の家族・親戚、さらには障害者支援福祉施設職員に多大な希望を与えるものになっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

大分県：障害者の学びに関する情報専門サイト
「かたろうえ大分」団体情報に掲載



写真2 デザイン化作品（ステッカー）

ダンスで心も体も元気に！！

功労者

■ 活動地

大分県

■ 団体名・氏名

レッツダンスでガッツ元気の会

■ 基本データ

継続年数	24年
活動分野	スポーツ 文化芸術 (ダンス)
主な対象	知的障害者
主な連携先	大学、社会福祉法人
団体の規模等	会員約30名、ボランティア25名

活動の概要

24年間の長きにわたり、知的障害がある方を対象に、定期的なダンス練習会を実施し、参加者は振付ダンスや創作ダンスを自分のレベルやペースに応じて楽しんでいる。学生ボランティアやリーダーと一緒に踊り楽しみながら活動を支えている。年1回の発表会の他、各種イベントにも多数出演するなど精力的に活動している。

■ 活動内容

1998年、当時大分大学教育福祉科学部の教授であった麻生和江氏が、専門である舞踊を生かして学生と一緒に小規模作業所の方々と交流を開始したことに端を発し、これまで24年の長きにわたって知的障害がある方のための定期的なダンス練習会（月1～2回）等を継続してきました。

その成果は「おおいた国体・おおいた大会（2008年）」の歓迎式典演技や「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会（2018年）」、毎年開催される「ダンス！ダンス！フェスティバル」のパフォーマンスで発揮されています。障害者が、自己表現が他者から承認されることによる自己肯定感の高揚、ボランティアとの交流を通じて視野や交友関係拡大に寄与しました。また、学生等のボランティアが障害者と「共に楽しんで踊る」経験を積むことで、障害者理解も深めています。健常者と障害者がともに踊り、楽しむという取り組みを通して当団体は共生社会の実現に大きく寄与しています。



写真1 発表会の様子（令和3年7月）

■ 活動の経緯・体制

平成10年、大分大学で教鞭を執っていた麻生氏が「障害のある方々と友達になりたい」という動機で小規模作業所の利用者とダンスを通じた交流活動を開始しました。知的障害者がダンスを踊る会として、毎月1～2回の活動形態やボランティア体制を整え、団体名を平成17年に「レッツダンスでガッツ元気の会」としました。

■ 活動の効果・普及状況

障害当事者は感情を表出しストレスを発散できるとともに、他者に自己表現を受容されることで自信や喜びを深められています。大学生ボランティアもインクルージョンの大切さを実感しその方法を学ぶことができます。参加者はコロナ禍でも50名ほどで継続する方も多く、生涯学習の場としての高い機能を有しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

大分県：障害者の学びに関する情報専門サイト
「かたろうえ大分」団体情報に掲載



写真2 練習風景（令和4年7月）

地域社会とのつながりを！「声の広報しんとみ」

功労者

■ 活動地

宮崎県新富町

■ 団体名・氏名

新富音声訳グループ「たんぽぽ」

■ 基本データ

継続年数	29年
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害者
主な連携先	新富町社会福祉協議会
団体の規模等	13名

活動の概要

29年もの多年にわたって、町の広報紙等を音訳した「声の広報しんとみ」を町内の視覚に障害がある方の自宅に届ける活動を行っています。その発行回数も717回（令和4年4月25日現在）を重ねており、町内の視覚に障がいがある方にとって、町内の事業内容や生涯学習等の情報を保障する上で高い効果をあげています。

■ 活動内容

毎月発行されている宮崎県新富町の広報紙「広報しんとみ」を音訳し、テープに吹き込んだ「声の広報しんとみ」を毎月2回に分けて作成しています。この「声の広報しんとみ」を町内に在住している視覚に障害がある方に届ける活動を29年間、継続して実施しています。現在13名の「たんぽぽ」の会員は、楽しみに待っている利用者のことを考え、読む速さや声の大きさを確認し、より分かりやすく正確に情報を伝えることを心がけています。利用者からも「新富の出来事や催しが分かって嬉しい。」との声が聞かれます。

また、音声訳のボランティアの人口を増やすため、地域住民への勉強会を行うなど、視覚に障害がある方の生涯学習を支える人材を育成する活動も行っています。

さらに、音訳活動だけではなく、地域住民に対し障害者理解を図る「地域理解研修会」に参加したり、社会福祉活動体験事業である「ふれあいスポーツ大会」に関わったりするなど、活動の範囲は多岐にわたっています。



写真1 新富音声訳グループ「たんぽぽ」の皆さん

■ 活動の経緯・体制

本グループの元会長である清美智子氏が、中学校教諭時代に受け持っていた視覚に障害がある生徒から、協力の依頼がありました。町内から23名賛同者が集まり、平成5年5月1日に当団体を設立しました。

現在、4つの班編制で活動体制をつくり、テープ吹き込みCD化を分担して音訳活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

毎月2回の「声の広報しんとみ」等による町政内容についての情報提供により、視覚に障害がある方にとって、地域の情報を得られるとともに、地域社会とのつながりをもつという点でも高い効果を上げています。

また、音声訳活動人口を増やす人材育成活動等、地域における障害者理解を図る取組も実施しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 テープに音声を吹き込んでいる様子

子どもたちに笑顔を!! with「びいだま犬」

功労者

■ 活動地

宮崎県宮崎市

■ 団体名・氏名

宮崎大学ボランティアサークル「びいだま」

■ 基本データ

継続年数	30年
活動分野	学習 その他
主な対象	肢体不自由児
主な連携先	宮崎県立こども療育センター、宮崎FUN・DOG
団体の規模等	30名

活動の概要

宮崎大学の学生を中心としたボランティアサークルです。本団体は長年にわたって、宮崎県立こども療育センターに入所している重度・重複障害がある児童生徒に対して、「学習指導」や犬との「ふれあい活動」を行っています。これらの活動は、障害者当事者の学習支援や地域社会との交流の機会の創出につながっています。

■ 活動内容

宮崎大学ボランティアサークル「びいだま」は、毎週水曜日の午後6時から7時まで、重度・重複障害がある児童生徒が入所している宮崎県立こども療育センターにおいて、学習指導や読み聞かせ、一緒に遊ぶなどの活動を行っています。

日常的に生活上の制限がある児童生徒は、これらの活動をととも楽しみにしています。活動日が近づくと、普段は自分の気持ちを表に出すことが得意ではない児童も表情を変えて喜ぶ姿が見られるなど、本団体の活動は児童生徒にとっての生きがいとなっています。

また、この活動の延長として、第3日曜日の午後、獣医師が所属する外部団体「宮崎FUN・DOG」と連携して、入所している児童生徒と犬とが触れ合う「ふれあい活動」を行っています。普段動物と触れ合う機会が少ない重度・重複障害がある児童生徒にとっては、貴重な体験となっており、感情表現が豊かになったり、意欲が湧いたり、リラックスしたりするなど、心身にとっても良い影響を与える機会になっています。



写真1 学習指導の様子

■ 活動の経緯・体制

平成4年の大学祭での発表をきっかけに、同好会として始めました。平成6年には犬との「ふれあい活動」を始め、サークルとして活動しています。

県立こども療育センターでの活動を中心とし、「ふれあい活動」では外部団体である「宮崎FUN・DOG」と連携して実施しています。

■ 活動の効果・普及状況

本活動は、約30年にわたる長期の取組により、これまで所属した学生も250名を超え、障害者支援の人材育成につながっています。また、卒業先も学校関係や福祉施設のみならず、工学、農学などあらゆる分野で活躍しており、本サークルで経験し学んだことをそれぞれの場で生かすことで、障害者理解につながっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 犬とのふれあい活動の様子

紡ぐ「て」と「て」が、言葉を繋ぐ。

功労者

■ 活動地

鹿児島県奄美市

■ 団体名・氏名

手話サークルてて

■ 基本データ

継続年数	33年
活動分野	学習・情報保障
主な対象	聴覚障害
主な連携先	奄美地区聴覚障害者協会
団体の規模等	28名

活動の概要

平成元年に結成されて以来、奄美大島本島唯一の手話サークルとして奄美地区聴覚障害者協会と共に活動し、生涯学習講座への講師派遣や各種イベントでの手話通訳（情報保障）等のボランティア活動、聴覚障害者との交流活動（レクリエーション等）の企画などを行い、聴覚障害者の社会参加の促進を図るとともに、手話の普及に努めています。

■ 活動内容

奄美地区聴覚障害者協会と共に、地域社会に対し、聴覚障害への正しい理解と認識を呼びかけ聴覚障害者の人権を擁護し、手話の普及と会員相互の親睦を図ることを目的として活動しています。

主な活動として、毎週月曜日に開催している例会での手話学習や手話を使ったゲーム、出前講座を活用しての体験活動や交流活動、聴覚障害者の参加する福祉スポーツ大会や、障害者・健聴者親睦グラウンドゴルフ大会などでの手話通訳（情報保障）等のボランティア活動を行っています。

また、奄美市の主催する手話奉仕員・通訳者の養成講座や、福祉専門学校・県立高校・介護職員初任者研修などへの講師通訳派遣なども行っています。

さらに、聴覚障害者との親睦・交流を目的としたレクリエーション（懇親会やボウリング大会など）も毎年続けており、コミュニケーションの輪を広げる活動も行っています。



写真1 創立30周年記念大会の様子

■ 活動の経緯・体制

初級手話講習会修了者のメンバーが自主的に始めた勉強会の中で、当時の大島地区ろうあ協会長から、サークルを発足してほしいとの要望があり、1989（平成元）年4月に結成されました。総務部（手話学習等）、広報部（行事の周知・機関誌の発行）、福祉部（各種行事の企画・運営）の3つの部会で成り立っています。

■ 活動の効果・普及状況

手話講座受講生や手話に関心を持っている方々が、手話をもっと学び、聴覚障害者とのコミュニケーションを深めていきたいと、サークルに入会される方も年々増えてきています。また自主的に手話検定試験へ挑戦するなど、手話活動に理解と熱意を持った会員も多数在籍しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 消防署でのAED講習会の様子

地域に根差した「声」の支援者

功労者

■ 活動地

埼玉県さいたま市

■ 団体名・氏名

朗読ボランティア けやきの会

■ 基本データ

継続年数	43年
活動分野	情報保障、学習
主な対象	視覚障害
主な連携先	
団体の規模等	14名

活動の概要

地域に暮らし「視て、読む」ことが困難な方たちのために、音訳や対面朗読によって支援するボランティア活動を行っています。

■ 活動内容

けやきの会は、録音資料「けやき通信」を隔月で発行し、新聞から選んだ記事や、川柳、随筆などのほか、岩槻の街並みの様子や会員の体験談など、リスナーにとって身近な事柄を取り上げ、伝えています。内容については事前に会員内で相談を重ね、リスナーが音や香りを想像したり、季節や年月の移り変わりを楽しめるよう工夫しています。

現在のコロナ禍においては活動がままならない部分もありますが、対面朗読やリクエストによる録音資料の製作など、地域リスナーの要望に寄り添った支援を続けています。



写真1 利用者と会員による親睦会の様子 ※撮影はコロナ禍以前

■ 活動の経緯・体制

けやきの会は、1979年に旧岩槻市民の有志により結成されました。朗読奉仕者養成講座を修了した会員を中心に、音声録音資料の作成や対面朗読など、視覚障害者を中心とした地域の方への支援活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

長年活動を続けていく中で、支援を行っていた視覚障害者の録音資料に対する需要が高まり、自ら点字図書館を利用する方も増えていきました。結果、直接支援する機会は少なくなりましたが、積み重ねてきた会の活動は確実に、地域の視覚障害者が読書への道を広げるきっかけとなっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 親睦会では皆でカラオケを楽しみました ※撮影はコロナ禍以前

挑戦・努力・継続

功労者

■ 活動地

新潟県新潟市

■ 団体名・氏名

大橋 鞞彦

■ 基本データ

継続年数	27年
活動分野	学習, 情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	社会福祉協議会, 行政等
団体の規模等	

活動の概要

中途視覚障害者となった後、独学で習得した音声パソコンの操作を、支援者等と共に県内各地に出向いて指導をしてきました。中途視覚障害者が、再び社会参加や情報取得ができるよう、音声パソコンの操作を指導しつつ、当事者同士の交流、情報交換の場となる教室の立ち上げに尽力し、現在も地元で活動を続けています。

■ 活動内容

1994年（当時50歳）網膜色素変性症のため視力をほとんど失い、音声パソコン(当初はワープロ)を独学で習得し、中途視覚障害者の自立支援に取り組む医師等の支援を受け、県内各地に出向いて指導を行いました。各地の教室は孤立感を深めやすい中途視覚障害者が集まる場を創出し、受講生の中から指導者が生まれたり、互いに教え合うなど、現在も各地で活動が継続されています。

現在代表を務める「パソコン教室 すずらん」は一般や大学生ボランティアの協力を得て運営され、スマートフォン等新しいことに挑戦したり、情報交換や交流の場ともなっています。また、クリスマスカードや歌詞集を作成し、地域の障害・介護施設等へ届け、交流を図るなど、障害があっても自分達でできることを地域社会に還元する活動も行っています。

小学校の総合学習の授業では、障害を持ってから始めたハーモニカや写真も披露し、障害があっても挑戦する姿を子ども達に伝えています。



写真1 パソコン教室 すずらん

■ 活動の経緯・体制

支援者等が各地の社会福祉協議会に発信し、要請を受けて県内各地で指導を行いました。地元でのパソコン教室開催にあたっては、自ら行政や社会福祉協議会に何度も働きかけて実現させました。また、当初から運営にはボランティアの協力は不可欠であると考え、公募や大学生ボランティアの協力を得て活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

パソコン（当初はワープロ）が普及していなかった当時から、県内各地で音声パソコンの操作を惜しみなく教え、中途視覚障害者に再び文字に触れる喜びや社会参加への意欲や希望を与えるきっかけを創出しました。

当時の教室は、形は変わっても、現在も地域の視覚障害者の生涯学習の場となっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

パソコン教室 すずらん（新潟市西蒲区）
<http://www5e.biglobe.ne.jp/~tonton20/>



写真2 介護施設との交流（歌詞集贈呈）

みんなでスポーツにチャレンジしてみよう！

功労者

■ 活動地

福岡県福岡市・北九州市など

■ 団体名・氏名

NPO法人はあとスペース

■ 基本データ

継続年数	12年
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	支援企業・団体
団体の規模等	理事長、事務5、パート4

活動の概要

身体または知的に障がいがある3～18歳までの児童を対象に、「車いすキッズ陸上教室」を開催し、初めて参加するキッズには、車いす競技用レーサー及び付属品を無償で貸し出しも行い、障がいを持つ子どもたちの育成を目指し、未来のパラリンピックアスリートを輩出できるように支援を行っている。

■ 活動内容

身体または知的に障がいがある3～18歳までの児童を対象に、キッズたちが少しでも長く、楽しく、真剣になれる時間を作っていきたいという思いから、1回あたり約3時間、毎月偶数月は大分、奇数月は福岡で練習会・記録会及びレーサー体験会などを開催しています。

初めて参加するキッズには、車いす競技用レーサー及び付属品を無償で貸し出し、障がいを持つ子どもたちの育成を目指し、未来のパラリンピックアスリートを輩出できるように支援を行い、ルールの説明やレバーの操作方法など丁寧に指導を行っています。

車いす競技参加者は約10～15名ですが、活動を支援していただいている方を含めると、参加者は100名を超えることもあります。

レーサー体験会には、障がいがある児童だけではなく、健常児の参加も呼び掛け、スポーツを通じた出会いの場、相互理解・相互扶助の環境も提供しています。



写真1 車いすキッズ陸上教室の様子

■ 活動の経緯・体制

車いすマラソンのアスリートとして世界で活躍していた山本浩之氏がコーチを務める「車いすキッズ陸上教室」では障がいのある子ども達のスポーツ活動を支援しています。現在は、複数の現役アスリートといっしょに子どもたちの指導を行い、多くのボランティアや支援企業の方とキッズの活動を盛り上げています。

■ 活動の効果・普及状況

教室の時だけでなく、レーサーを長期間貸与し、障がいのある子ども達が日頃からスポーツ活動を行えるように支援しています。また、長く活動を行うことにより、問い合わせや参加希望者が増え、活動の輪も広がり、医療系専門学校の先生や学生が練習会前後のストレッチを教えてくれるなどしています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<http://heart-space.net/katsudou/>



写真2 キッズが参加した福岡マラソン2019表彰式の様子

音楽を、生きる力に。

奨励者

■ 活動地

滋賀県大津市

■ 団体名・氏名

滋賀大学教育学部音楽教育支援活動
(滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター)

■ 基本データ

継続年数	7年
活動分野	文化芸術・学習
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校、障害福祉サービス事業所など
団体の規模等	役員（教員）12名、事務職員1名

活動の概要

障害児者への音楽教育プログラムの提供、音楽活動の支援を行っています。特別支援学校や障害福祉サービス事業所などでのコンサートやワークショップ、センター内での音楽療法・特別支援ピアノ教室、指導者講習会などを実施しています。

■ 活動内容

滋賀大学 教育学部 林 睦研究室では、2015年頃から特別支援学校への音楽教育支援活動を実施してきましたが、その活動がもととなり、全国でも珍しい、障害児者の音楽教育に特化した学部附属研究施設として、滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター（愛称：おとさぼ）が設立されました。事業には4つの柱があり、①アウトリーチ事業（滋賀県内の特別支援学校や障害福祉サービス事業所などに出向いてコンサートやワークショップを提供する）②インリーチ事業（センターで音楽教育プログラムを実施。音楽療法や特別支援ピアノ教室も開講）③指導者講習会（音楽教育や音楽療法の指導者講習会を実施）④先端研究・パイロットプログラム（障害児者の音楽教育や音楽療法についての研究・事業を実施し、成果を国内外に発信する）となっています。参加者に丁寧に寄り添った内容や交流を心がけており、音楽を真ん中に楽しく活動することで、ダイバーシティの推進に寄与していきたいと考えています。



写真1 オープニングコンサートの様子

■ 活動の経緯・体制

障害児者への音楽教育支援活動は7年前から実施していますが、その活動がもととなり、2020年10月に寄附により「滋賀大学藤村泰子記念基金」が設立され、センターが創設されました。教育学部の音楽教育や障害児教育の教員12名が、それぞれの専門性を生かして事業に携わり、地域の音楽家や音楽の指導者とも連携しています。

■ 活動の効果・普及状況

センターとして実質的な活動の初年度となった2021年度には、アウトリーチ事業9本、インリーチ事業5本、指導者講習会3本、パイロットプログラム4本の計21事業に1,081人の参加がありました。特別支援学校など約500名を招待したびわ湖ホールでのオープニングコンサートを皮切りに、活動が滋賀県一円に広がってきています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターHP
<https://www.otosapo.com>



写真2 特別支援学校でのコンサート

学校でも家庭でもない「第3の場」

功労者

■ 活動地

北海道函館市

■ 団体名・氏名

サマースクールin函館

■ 基本データ

継続年数	25年
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ その他(余暇支援活動)
主な対象	知的障害
主な連携先	北海道教育大学・函館市教育委員会
団体の規模等	約100名

活動の概要

特別支援学校(学級)、通常学級に在籍している特別な教育的ニーズのある児童生徒、児童発達支援センターや認定こども園などに在籍している年長児を対象に、夏期休暇余暇支援プログラムを実施している。函館市近郊在住の障害のある児童生徒や年長児の夏休みに欠かすことのできないイベントの一つとなっている。

■ 活動内容

本活動は北海道教育大学函館校の教員と学生が組織している「サマースクールin函館実行委員会」が中心となって運営しているボランティア活動です。実際の活動は8月の月上旬に4日間の活動を実施していますが、計画立案や教材作りなどは数か月前から活動の直前まで実施しています。

活動は「幼稚園ブロック(1グループ)」「小学生ブロック(2グループ)」「中学生ブロック(2グループ)」の3ブロックに分かれて組織し、それぞれの発達年齢に合わせた教材作りや活動を実施しています。実際の活動においては、幼稚園ブロックでは、就学を見据えて小学生が使っている教室で生活をしたり、校内の探検などを実施しています。小学生ブロックでは、巨大な布に自由に絵をかいたり、外出したりするなど日頃の生活では経験することができない活動を展開し、中学生ブロックでは、制作活動や運動会、実験活動などを展開しています。



写真1 中学生と高校生の交流の様子

■ 活動の経緯・体制

本活動は1996年に北海道教育大学函館校の教員と学生を中心に、函館市内及び近郊の市町村に在住している特別支援学級や特別支援学校に在籍している障害児を対象に長期休業中の余暇を支援するために立ち上がったプログラムです。現在は、函館校の教員と活動を支えるボランティア学生を中心に活動を運営しています。

■ 活動の効果・普及状況

参加した児童生徒にとって、共に活動する大学生との出会いは、社会性の育成や人間関係の育成など、普段では経験することのできないものとなっています。また、本活動は函館市を中心に活動を展開してきていますが、近隣の市町村でも同様の活動が開始されています。
※近隣市町村はコロナ禍により現在は中止しています。

■ その他(団体紹介やホームページのURL等)

http://www2.hak.hokkyodai.ac.jp/disable-lab/samasuku_top.html



写真2 小学生による巨大アート制作の様子

ボッチャを「楽しむ」そして「支える」

奨励者

■ 活動地

大阪府羽曳野市

■ 団体名・氏名

大阪公立大学 ボッチャ部

■ 基本データ

継続年数	15年
活動分野	スポーツ
主な対象	重度障がい者
主な連携先	府内の小中学校, 大阪ボッチャ協会等
団体の規模等	部員58名

活動の概要

リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生を中心に、障害の有無や年齢、性別に関係なく参加できるスポーツであるボッチャの特性を活かし、地域のボッチャ協会や小中学校、特別支援学校とも協力しながら、ボッチャを通じた障害者の参加促進、体験や障害の理解を促すためのイベント等に参画しています。

■ 活動内容

ボッチャ部設立前より、「Adapted Sports Club」として障がい者スポーツ活動のサポート等を行ってききましたが、健常者が出場できる大会も増えてきたことから、学生自身も選手として強くなるための「ボッチャ部」が設立されました。

「普通が変わる、普通を変えろ」をモットーに、障害があるため、「できない」ことが「当たり前、普通」といった世の中のイメージを変えていけるよう、ボッチャを通じた様々な活動をしています。

主に地域在住の重度障害者の参加の場の提供や活動のサポート、健康増進のため、本学の体育館で重度障害のあるボッチャ選手との練習会の実施や、リハビリテーションの専門的な知識を活かした選手のトレーニングのサポート等を行っています。また、地域のボッチャ協会、特別支援学校とも協力して大会運営や普及活動を行ったり、小中学校から依頼を受け、ボッチャを通して障害理解を促進するような授業への協力も行っています。



写真1 ボッチャ部メンバー集合

■ 活動の経緯・体制

学生自身が選手として強くなるためのクラブ活動や大会への参加はもちろん、重度障害者のスポーツ活動の支援にも継続して携わっています。現在は、大阪ボッチャ協会等の団体とも協力しながら、ボッチャの普及活動、大会運営のサポート等、重度障害者の参加支援を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

昨年、大学西日本選手権で優勝し、ボッチャ東京カップ（日本ボッチャ協会主催の全国大会）に出場しました。その活躍からボッチャのことを知って入部する学生も増えており、自分たちもボッチャを楽しみながら重度障害者のボッチャ選手をサポートできる体制が充実してきています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

Twitter → @omuboccia

Instagram → @omu_boccia



写真2 屋外でのボッチャ体験イベント

親になるための家族まるごと支援

奨励者

■ 活動地

全国

■ 団体名・氏名

蔭山 正子

「ゆらいく」「こどもぴあ」他

■ 基本データ

継続年数	7年
活動分野	学習、情報保障
主な対象	精神障害者と家族
主な連携先	精神障害者家族会、当事者団体
団体の規模等	運営約50人、参加者延べ1000人以上

活動の概要

精神障害のある方が親になるために必要な家族まるごと支援として、精神障害のある方の子育てピアサポートグループ「ゆらいく」、精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもぴあ」、精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会の設立や運営を支援しています。

■ 活動内容

精神障害のある子育てピアサポートグループ（ゆらいく）は、2019年に設立され、毎月オンラインの集いを開催し、体験共有、学習、情報共有を行っています。また、神奈川、東京、名古屋、大阪を拠点とし、対面で集いも開催しています。運営は主に当事者である精神障害のある方が担っています。

精神疾患の親をもつ子どもの会（こどもぴあ）は、2015年から活動を開始し、2017年に発足しました。以後定期的に集いを開催し、札幌、東京、大阪、岡山、福岡、沖縄に活動が広がっています。ピア学習プログラムを実施しています。運営は主に子どもの立場の方が担っています。

精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会は、世話人の前田直氏が2016年に活動を開始しました。定期的に集いを開催し、函館、福岡、埼玉でも同様の団体が開始しています。ピア学習プログラムを実施しています。



写真1 「ゆらいく」設立当初メンバー

■ 活動の経緯・体制

様々な生きづらさを抱える精神障害者は、出産や子育てなど不安な要素が多いライフステージにおいて他者との交流や情報を得ることも困難となり孤立を深めてしまいがちです。その支援として、同じような経験のある当事者及び家族同士によるピアサポートの有効性に着目し、団体の設立や運営を支援しました。

■ 活動の効果・普及状況

活動は全国的に広がりを見せています。「ゆらいく」では、パンフレット「メンタル不調を抱えて親になるあなたへ」を作成し全国の市保健センターに配布しました。当事者や家族と本4冊を執筆し、医学のガイドライン作成にも協力しています。支援者や学校の先生向けの研修動画も作成しました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<https://yuraiku0501.wixsite.com/yuraiku>
<https://kodomofff.amebaownd.com>



写真2 「ゆらいく」で作成したパンフレット

触る地図で、視覚障害者も街やニュースがわかる

功労者

■ 活動地

新潟県新潟市

■ 団体名・氏名

新潟大学 工学部 渡辺研究室

■ 基本データ

継続年数	12年
活動分野	情報保障、学習、文化芸術
主な対象	視覚障害者
主な連携先	社会福祉法人、特別支援学校、点字図書館
団体の規模等	教職員4人、学生10人

活動の概要

視覚障害者の地理情報へのアクセスを保障するため、利用者の要望に応じて触地図を作成・送付するサービスを12年にわたって続けてきました。視覚障害者にとって地図の理解は、単に移動経路を知るだけでなく、街を知る、地域を知る、日本を知る、世界を知る生涯学習につながっています。

■ 活動内容

視覚障害者が手で触って地理情報を読み取ることができる「触地図」を、視覚障害者からの依頼に応じて作成し、送り届けています。これまで作ってきた触地図の種類は、依頼者の自宅周辺や通勤・通学・避難経路、街全体の地図（鉄道、駅、主要な道路を含む）、駅構内図、地方自治体地図、世界地図、などです。

作成の要望はメールで受け付けています。依頼内容によりませんが、2週間から2ヶ月位をめどに作成し、送っています。毎年開催される視覚障害者向け総合展示会「サイトワールド」に出展し、来場者が所望する触地図をその場で作成・提供して喜ばれています。

触地図の作成には、研究室の研究成果である触地図作成システムを使います。これにより作成時間の短縮を図っています。

2022年4月には、世界中の人々の関心が集まるウクライナの触地図を作り、希望者200人以上に届けました。

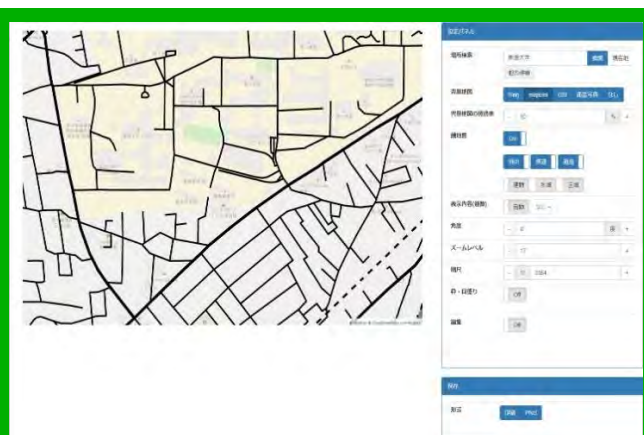


写真1 触地図作成システムの画面

■ 活動の経緯・体制

研究室で開発した触地図作成システムの普及の一環として、2010年6月にサービスを開始しました。メールでは年間10数件、12年間で160件以上の依頼を受け、200枚以上の触地図を作成してきました。研究室の事務補佐員や、触地図をテーマとする学生が基本的な図を作成、教員が触りやすさをチェック・修正して仕上げます。

■ 活動の効果・普及状況

利用者の感想から、触地図が街やニュースの理解に役立っていることがわかります。「駅まで1人で行けるようになった」「距離感をイメージできた」「道路や川的位置関係がよくわかった」（街の地図への感想）。「ニュースで報道される都市がわかった」「侵攻の地域や理由がわかった」（ウクライナの地図への感想）。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

新潟大学 工学部 渡辺研究室のホームページ
<http://vips.eng.niigata-u.ac.jp/>

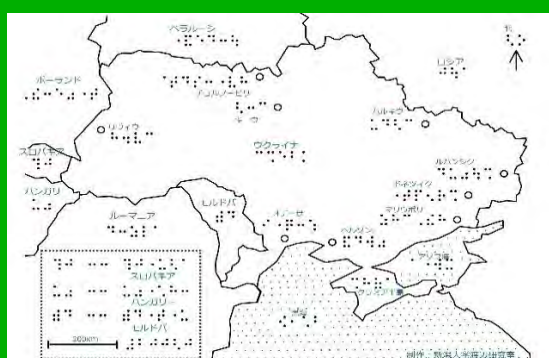


写真2 ウクライナ周辺の触地図

スポーツ用具の研究開発を通じた学習支援活動

功労者

■ 活動地

新潟県長岡市

■ 団体名・氏名

長岡技術科学大学・苫小牧工業高等専門学校
障がい者用競技スポーツ用具の研究開発を通じた生涯
学習支援活動

■ 基本データ

継続年数	11年
活動分野	スポーツ・学習
主な対象	肢体不自由者
主な連携先	長岡技術科学大学・苫小牧工業高等専門学校
団体の規模等	25名(学生18名・教員7名)

活動の概要

車いすに代表される障がい者用競技スポーツ用具の研究開発を通じ、日常生活から競技スポーツまで幅広く貢献できる教育研究活動に取り組んでいます。本活動では障がい者らとの交流や意見交換に基づいたスポーツ用具開発のみならず、学術研究や教育活動といった幅広い分野への参画により生涯学習支援活動へ貢献しています。

■ 活動内容

我々は、障がい者にとってスポーツ活動自体が生涯学習であるという信念に基づき、今日まで障がい者用競技スポーツ用具の研究開発を通じた生涯学習支援活動に取り組んでいます。この活動は、障がい者らとの交流や意見交換に基づいた単なるスポーツ用具開発に留まるのではなく、学術研究分野での活動を通じて支援したアスリートをはじめとする障がいのある方々に対し、学会やシンポジウムといった学術研究の場へ招聘するなど、障がい者のキャリアアップを図るための基盤づくりにも取り組んでいます。また、教育研究機関ならではの取り組みとして、学術的な知見や工学をベースとした知識と専門性を活かし、大学・高等専門学校（高専）の学生達と障がい者の方々が協働するワークショップ等の実践的教育活動から、直面する課題や問題に対して技術的観点から解決案を導くといった学習支援と同時に、将来、スポーツ用具や福祉機器を開発する技術者の人材育成にも積極的に取り組んでいます。

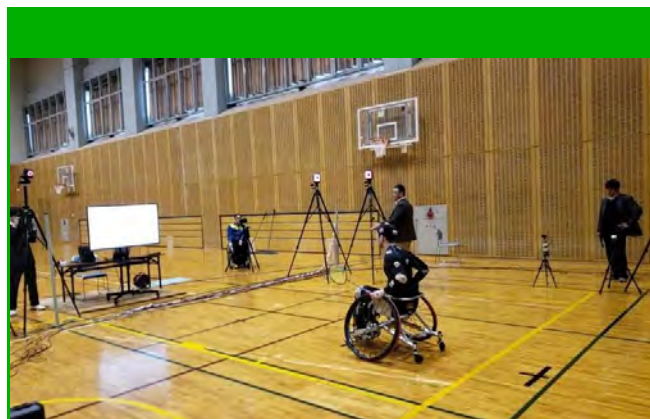


写真1 パラアスリートの協力による評価実験

■ 活動の経緯・体制

長岡技術科学大学と苫小牧工業高等専門学校は、平成23年より車いすに代表される障がい者用競技スポーツ用具の研究開発をスタートさせました。今日まで我々は企業や研究機関と協力し、工学の知識や技術を活かして日常生活の向上、競技スポーツへの貢献、人材育成といった幅広い範囲を対象とする取り組みを展開しています。

■ 活動の効果・普及状況

- ・東京2020パラリンピック競技大会におけるメダル獲得に貢献(車いすテニス、車いすバドミントン)
- ・学会やシンポジウム等を通じて、専門技術や学術的な知見の共有による生涯学習支援の促進
- ・支援技術者育成を目的とした教育活動への参画促進(アドバイザー、ファシリテーター)

■ その他(団体紹介やホームページのURL等)

<https://www.nagaokaut.ac.jp/>
<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/>

講演者 二條 実穂 氏



写真2 パラアスリートを招へいた特別講演 (SHD2021)

ニコニコ体操教室～楽しい！できる！を大切に～

功労者

■ 活動地

福岡県北九州市

■ 団体名・氏名

九州共立大学アダプテッド・スポーツ研究会

■ 基本データ

継続年数	22年
活動分野	スポーツ
主な対象	発達障害児ときょうだい児
主な連携先	放課後デイサービス/保護者会
団体の規模等	支援者学生：50名,参加者：35名

活動の概要

大学生が支援者となり、発達障害児を対象とした体操教室を実施している。アダプテッド・スポーツの考え方を重視し、障害の有無に関わらず、誰もがいま持っている能力で楽しむことができる様、ルールや用具の改変や、多様な子どもたち個々人に合わせたスポーツの支援を工夫することで、たくさんの「楽しい・できる！」を育てている。

■ 活動内容

九州共立大、九州女子大のクラブ活動「アダプテッド・スポーツ研究会」は、多様な子どもたちが身体を動かし、人と触れあう楽しさを伝えることを目的に活動しています。障害者スポーツは、ルールや用具を障害の種類や程度に適合（アダプト）させることから「アダプテッドスポーツ」とも呼ばれ、研究会は月に2回の土曜と毎週水曜の放課後、九州共立大の体育館で「ニコニコ体操教室」を開き、集まってきた子どもたちと運動や工作、音楽鑑賞などをする。現在、体育館に来る子どもたちは約30人。未就学児から高校生まで幅広い。活動プログラムは、約50人の部員たちが意見を出し合って作り、模擬授業をしたうえで実践する。学生たちが作るプログラムはバランス感覚向上のため平均台や跳び箱を取り入れたり、空間認知の能力を高めるため大きい布の中をくぐらせたりするなど、さまざまな工夫が凝らされている。この活動を通して、障害のある子どもたちのことを学び、子どもたちの理解者が育っています。



写真1 フープのトンネル（空間認知の能力向上）

■ 活動の経緯・体制

障害児が地域で運動ができる場所が無かったことから、2000年に大学の地域貢献活動の一環として始めました。多様な子どもたちの余暇時間の向上を目指し、スポーツを通して身体を動かし、人と触れ合うことで笑顔いっぱいになるよう支援を心がけています。支援者は、将来教員を目指している子どもが大好きな大学生です。

■ 活動の効果・普及状況

体操教室ではアダプテッド・スポーツの考え方を重視しており、その人に合わせたスポーツ内容を工夫し「楽しい・できる！」を大切にしています。本来のルールにとらわれず子どもたちが取り組みやすいよう、ルールを変えて実施することにより、安心して参加できる環境の中でのびのび活動することで自己肯定感を育てています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

九州共立大学 <https://www.kyukyo-u.ac.jp/>



写真2 ふれあいを通してニコニコ笑顔(^_^)

今と未来とみんなをつなぐ～ダウン症児親の会

功労者

■ 活動地

岡山県津山市

■ 団体名・氏名

ダウン症児親の会「あひるの会」

■ 基本データ

継続年数	33年
活動分野	学習、文化芸術、スポーツ
主な対象	ダウン症児
主な連携先	行政・大学・病院・育成会
団体の規模等	会員数 62家族

活動の概要

津山市を中心とした県北に住むダウン症児を対象に、療育や余暇指導を行っている。年齢は未就学児から社会人まで幅広いが、ニーズにあった活動を取り入れている。ダウン症児の生活を豊かにする余暇的指導などと共に会員の連携や地域で障害児者の理解を促進するための啓発活動を大切にしている。

■ 活動内容

ダウン症児に対しての療育教室や余暇活動支援を中心に活動を行っている。

〔療育教室〕 平成3年度より月1回療育教室を行っている。親の悩みや不安を解消するための療育相談やダウン症児の特性でもある筋緊張低下を改善するための体操などを行っている。生後から青年期のダウン症児と家族が対象になっている。

〔ダンスユニット〕 平成19年度に活動を開始した。月1～2回、地元のダンスインストラクターのレッスンを受け、津山市の福祉イベントや県外での文化芸術フェスティバルなどでステージ発表を行っている。小学生から30代までのメンバーがいる。

〔書アート〕 平成22年度より地元の書家の指導を受け、書のアート作品のワークショップと作品展示を行っている。

このほかにも、幼児・小学生や青年期に分けた余暇活動を開催している。



写真1 療育教室

■ 活動の経緯・体制

ダウン症児親の会「あひるの会」は、平成元年に県北の6家族で立ち上げた親の会で、現在まで30年以上親の会役員を中心に活動を推進している。行政の理解や療育の専門家、地元のダンスインストラクター、書家、芸術家、大学生、和太鼓指導者などの支援を受けて活動を行っている。

■ 活動の効果・普及状況

会員数は、平成元年の6家族から、平成10年に33家族、平成21年に51家族、令和4年に62家族と増えてきている。親や当事者のニーズに合った活動を行い、ダウン症児を持つ家族の期待に応えるように努めてきた。地域に出かけての交流的活動も多く、地域への啓発とダウン症児の生活の充実にも繋がっている。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<http://ahirunokai.sakura.jp>



写真2 ダンスユニット

世界へ「パワー」をとどけるLOVEJUNX

功労者

■ 活動地

東京・横浜・大阪・札幌

■ 団体名・氏名

LOVEJUNX

■ 基本データ

継続年数	19年
活動分野	文化芸術
主な対象	ダウン症のある人
主な連携先	公益財団法人日本ダウン症協会
団体の規模等	1500名（生徒、保護者、スタッフ）

活動の概要

20年にわたりダウン症のある多くの人たちにダンス、歌、演劇を指導している。2003年から毎年開催している東京（近年は中野サンプラザホール）での公演をはじめ、全国各地で多数の公演、イベントに出演するなど、ますますの飛躍が期待される。

■ 活動内容

ダウン症のある方にエンターテインメントの楽しさを感じてもらい、表現するということの素晴らしさを伝え、そして、より多くの方に理解してもらうことで、誤解や偏見をなくし、彼らの可能性を広げることを目的として活動しています。

ダウン症のある方は、比較的ゆっくり成長しますが、秘められた可能性が無限大です。感受性が高く、彼らの笑顔には相手を笑顔にさせる力があります。筋肉が付きにくいと言われているダウン症のある方によるヒップホップダンスは、国内外の医療や福祉の専門家からとても画期的なものだといわれ、多くのメディアでも取り上げられています。

ダンス、歌、演劇をメインに、多くのイベント出演や出張レッスンなどの活動をしています。現在、関東・関西・北海道で800名以上が在籍する国内最大級の活動団体です。



写真1

公演にて

■ 活動の経緯・体制

平成13年、日本ダウン症協会のプロジェクトに協力したをきっかけに、「沖縄アクターズスクール」のインストラクター、牧野アンナ氏が「ラブジャンクス」を設立しました。現在、インストラクターは関東・関西・北海道併せて10名、事務スタッフ3名、ボランティアスタッフとして生徒の兄弟姉妹にも協力いただいています。

■ 活動の効果・普及状況

現在、ヒップホップダンスは、ダウン症のある人の趣味として広く楽しめるものになっています。ラブジャンクスを草分けに、各地にダンスサークルやスクールができ、また、ラブジャンクス所属のダンサーがパラリンピックのステージに登場するなど、メディアを通じ、ダウン症のある人の生き生きした姿を伝えています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<https://turbox.jp/>



写真2

公演にて

音楽大好き！！～みんなで演奏するとたくさんの笑顔に出会える～

奨励者

■ 活動地

栃木県宇都宮市

■ 団体名・氏名

どれみふぁクラブ

■ 基本データ

継続年数	12年
活動分野	文化芸術
主な対象	知的障害者
主な連携先	特別支援学校、文化芸術団体
団体の規模等	指導者2, ボランティア3、会員18

活動の概要

現在のメンバーは、特別支援学校卒業生18名。保護者やボランティアの支援を受けて活動をしている。日中は、通所施設や職場で仕事を行い週に一度の夜間に宇都宮市の公共施設を借用して練習を行い、練習の成果の発表の場として年に一度の発表会の開催や各種のイベントに参加して演奏をしている。

■ 活動内容

毎週火曜日の夜間の練習を楽しみにしています。「無理なく楽しく。でも練習は休まない」がモットーです。ハンドベルの演奏とキーボードや打楽器を使用したアンサンブル曲の練習をします。ハンドベルは、色のマッチングの手作りの楽譜を使用しています。楽譜を読むメンバーはほとんどいませんが、時間をかけてそれぞれのメンバーに合った支援の工夫をすることで、少しずつできるようになります。「継続は力なり」を示してくれるメンバーです。練習の成果を聴いていただく場として2011年より毎年12月に発表会を開催しています。発表会の開催により多くの方にどれみふぁクラブのことを知っていただくようになり、イベント等で演奏をさせていただく機会も増えてきました。どれみふぁクラブのメンバーの姿を見ていただき演奏を聴いていただくことは、障害者の理解啓発に一役買っています。また多くの方々の前で緊張しながらも生き生きと演奏できる日が来ることを願って練習に励みます。



写真1 たくさんのお客様の前で演奏～ドキドキ～

■ 活動の経緯・体制

2005年5月より宇都宮大学附属特別支援学校にて親子で楽しめる放課後の音楽活動として「メロディークラブ」の活動が始まりました。現在も活動を継続しています。このメロディークラブの卒業生が中心となり2010年6月に「どれみふぁクラブ」の活動が始まりました。指導も保護者が行っております。

■ 活動の効果・普及状況

知的障害を持つメンバーですので言葉で表現することは、難しく、時には不安定になり大きな声を出してしまうメンバーもいます。そんな時でもゆったりとした気持ちで寄り添うことで安心して過ごせる居場所になっています。その結果自信を持って練習に参加できます。今後もメンバーの笑顔を大切に活動を継続していきます。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 2018年発表会の集合写真

歴史を紡ぐ ～われら小平のなかま～

功労者

■ 活動地

東京都小平市

■ 団体名・氏名

小平養護・特別支援学校 同窓会

■ 基本データ

継続年数	56年
活動分野	文化・芸術
主な対象	本校卒業生
主な連携先	特別支援学校、PTA、社会福祉法人
団体の規模等	会員約200名・準会員40名

活動の概要

東京都立小平特別支援学校の同窓会として今年で56年目を迎えた。当事者である会員を支援者である世話人・準会員（教職員等）が支援しながら、継続的に活動を行っている。本団体会員は、社会生活を営む中で本団体を仲間であることの拠りどころとして自己肯定感を高め、愛校心をもって生き生きと日常生活を送っている。

■ 活動内容

創立70年の歴史がある本校の卒業生は企業就労したり地域の施設へ通所したりと様々な形で社会参加していますが、56年目を迎えた同窓会活動や会員とのつながりを心の拠りどころとして、地域で生き生きと生活するための原動力とすることができており、そのための支援活動として継続的に取り組んできています。

《定例総会》毎年5月に母校を会場に実施、今年度は会員・準会員等併せて約30名が参加しました。

《地域交流集会（こだいら夏まつり）》毎年7月の学校で開催される夏まつりに模擬店で物品の販売等を行い、活動資金の一部としています。

《文化祭》文化祭において同窓会のスペースを設置し旧交を深める場となっています。

《20歳を祝う会》毎年1月に学校を会場に、20歳を迎えた卒業生をお祝いします。令和2・3年度はリモート開催となりましたが、関係教職員、保護者も参加し、心温まる会となりました。

《会報「なかまたち」の発行》年一回の発行で現在65号となっています。



写真1 母校の文化祭でのカフェテリアの様子

■ 活動の経緯・体制

・発足当時は、教員が呼び掛け役となり、会員で構成する執行部が中心となって運営が行われていました。現在は、障害の状況により会員が中心となって運営していくことが困難になっているため、退職教員の有志等が世話人として推進役となり会員を支えながら、近況を報告し合い運営を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

・卒業生である会員の重度化が進む中、同窓会が長きに渡り継続し見本となる活動を行ってきたことは、他の特別支援学校の同窓会等への波及効果をもたらしています。世話人による教職員への影響力は高く、障害者の生涯学習支援活動の根幹をなすものとして有効性があり社会貢献としてより高い効果を上げています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

東京都立小平特別支援学校HP：

<http://www.kodaira-sh.metro.tokyo.jp/>



写真2 令和4年度 スペースを開けての定例総会の様子

全ての作品に存在する価値を世に伝えていく。

功労者

■ 活動地

京都府・滋賀県

■ 団体名・氏名

土と色 ひびきあう世界 実行委員会

■ 基本データ

継続年数	40年
活動分野	学習・文化芸術
主な対象	知的障害・重症心身障害
主な連携先	ダイترون福祉財団
団体の規模等	京都・滋賀の福祉施設

活動の概要

京都・滋賀の19カ所の福祉施設利用者を対象とする、日々の活動や余暇の過ごしの中で生まれてくる粘土を中心とした作品を展示している。各施設の造形担当者が施設代表者として集まり委員会を組織立てて運営し、2年に一度のペースで継続的に京セラ美術館（元京都市美術館）にて展覧会を開催している。

■ 活動内容

物に向き合うなかには学びがあること、作品が生まれる時間にこそ価値が存在するものとして日々の活動で生まれてくる作品を可能な限り展示しています。作品に優劣は無く、偏った評価がされないよう作品群として観覧できるよう展示形態に工夫しています。日頃の活動に関して、指導者は教える姿勢ではなく、作り手が物を通して学んでいく姿を肯定し、願い、作り手の自発性を尊重し、自由の中で作り手が遊ぶことのできる環境を整えながら信じて待ち続ける。そういった指導者と作り手の水平な関係性による活動を理想としています。また指導者側も展覧会を通して他施設の作品に触れることで、縛られた価値観からの脱却を目指し、作り手への新たな理解や発見、活動への共鳴と繋げることを目的としています。未だに知的障害者による自由に満ちた作品は、ほんの一握りしか世に発表できていないと認識しており、もっと幅広い造形作品が生まれてくることを願っています。



写真1 第15回「土と色」展示風景

■ 活動の経緯・体制

滋賀県の福祉施設では、昭和40年頃から知的障害者の造形能力に着目して、主体性を持った自立活動として粘土造形を取り入れてきました。京都の施設にも活動が広がり、昭和56年より「土と色展」を隔年開催してきました。休止期間もありましたが、各施設の代表者が集い、必要性の意を固めて40年の継続開催に至っています。

■ 活動の効果・普及状況

2年に1度の展覧会では、芸術の有識者に限らず、幅広い職種の方々に強い関心を持ってもらい、活動への協力や意見交換の交流を重ねています。また展覧会を通して各施設が交流することで、新しい視点を持った支援の向上に繋がっています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）



写真2 造形活動時の様子

自転車を通じて、笑顔の輪を広げる！

功労者

■ 活動地

福島県いわき市、他

■ 団体名・氏名

一般社団法人日本パラサイクリング連盟

■ 基本データ

継続年数	32年
活動分野	スポーツ
主な対象	パラサイクリングに興味のある方すべて
主な連携先	特別支援学校や視覚障害者向けの施設、ダウン症協会など
団体の規模等	役員6名 従業員2名 会員約50名

活動の概要

パラリンピック等国際大会での選手の活躍に向けた活動を推進するとともに、各地域での普及活動を実施している。福島県いわき市を中心に、視覚障害の方や、ダウン症の方、重度身体障害の児童らに向けたパラサイクリング体験会を開催しながら、障害のあるなしに関わらず自転車を楽しめる環境づくりに邁進している。

■ 活動内容

私たちは、パラサイクリングのナショナルチームとして、国際大会やパラリンピックでのメダル獲得を目指して、毎月の合宿や遠征の派遣を行っています。東京2020パラリンピック大会では、杉浦佳子選手が金メダルを二つ獲得、他出場選手も全員入賞を果たすなどの好成績をおさめました。

現在連盟の拠点としている、福島県いわき市に2021年にオープンした「いわき自転車文化発信・交流拠点ノレル」に運営団体として関わり、視覚障害の方や、ダウン症の方、重度身体障害の方でも一緒になって風を感じることができる、パラサイクリング体験会等を実施しています。初心者から上級者まで、さまざまな段階での自転車の楽しみ方を広めながら、障害のあるなしに関わらず、すべての人が自転車で楽しめるまちづくりを推進しています。



写真1 東京2020パラリンピック大会集合写真

■ 活動の経緯・体制

現在ナショナルチームの代表で、専務理事である権丈泰巳が、大学在学中に二人乗り自転車タンデムで視覚障害の方を後ろに乗せて走るボランティアを実施していたことからパラサイクリングの世界に関わるようになり、2012年に法人化しました。日本障害者自転車協会の頃からあわせると、活動歴は32年になります。

■ 活動の効果・普及状況

各地域でのパラサイクリング体験会を通じて、当事者の方に自転車に乗る機会を提供するだけでなく、分かれてしまいがちな健常者／障害者が出会い、共に楽しむ場を作ることによって、本当の意味での共生社会の実現に尽力しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

JPCFのHPはこちら <https://jpcfweb.com/wp/>
ノレル?のHPはこちら <https://noreru-iwaki.jp/>



写真2 平支援学校でのパラサイクリング体験会

一緒に当たり前の社会へ

功労者

■ 活動地

全国

■ 団体名・氏名

一般社団法人日本ボッチャ協会

■ 基本データ

継続年数	24年
活動分野	スポーツ・学習
主な対象	すべて
主な連携先	教育関係、企業、行政
団体の規模等	1500名

活動の概要

パラリンピックや国際大会での選手の活躍に向けた活動の推進と、地域での普及活動の推進。重度障がいがあっても気軽に参加できるように、また、多様な方々が一緒に参加できるように、体験会、学校事業、その他事業を展開し機会の創出や環境づくりを、地域や行政と連携して行っています。

■ 活動内容

重度障がい者が参加できるパラリンピック競技として、継続してパラリンピックでのメダルを獲得するために選手が活動しやすい環境の構築を行っています。

大会事業としては、パラリンピックに通じる日本選手権をはじめ、全国ボッチャ選抜甲子園を開催し国内では他競技にはない障がい者の中高生の全国大会を実施し選手発掘の機会として、また、重度障がい者が青春を感じる場となっています。更には、東京カップを開催し、障がいあるなしに関わらず参加することができ、ハンデなしで競える世界初のインクルーシブ大会を実施し、自然に共生することを体感できる機会を創出しています。その他、事業展開として、独自の「学校派遣事業」、自治体、地域連携を目的とした「Bチャレンジ事業」、選手強化・普及・PRを目的とした「キャラバン事業」、全国的にボッチャファンを拡大させるための事業「ボッチャ1万人プロジェクト」を実施し、全国各地で普及活動を実施しています。



写真1

東京カップ

■ 活動の経緯・体制

1988年ソウル大会で正式種目に採用されたことを契機に1992年に社団化され設立されました。パラリンピック独自競技で国民認知度が低い中、誰もが一緒にできるスポーツの魅力を知ってもらうことを基本に、選手だけでなく、サポートする支える人も増やすことを目標として強化・普及を推進しています。各事業で参加する機会を自治体や地域協会を連携して事業展開をしています。

■ 活動の効果・普及状況

2020東京大会開催後、国民認知度が50%に迫る勢いとなり、誰もが一緒にできるスポーツとして多くの多様な方々が参加するようになりました。共に練習に取り組むことで選手のスキルアップや支える人も増えています。交流大会の参加数も増加傾向で、2022東京カップでは火ノ玉JAPANを破り企業チームが優勝するなど、ユニバーサルスポーツであることを立証しました。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

<https://japan-boccia.com/>



写真2

2020東京大会火ノ玉JAPAN

～楽しさ・奥深さ・スピード・パワー～

車いすテニスの魅力を世界に届けたい！

功労者

■ 活動地

全国(拠点:福岡県飯塚市)

■ 団体名・氏名

一般社団法人日本車いすテニス協会

■ 基本データ

継続年数	31年
活動分野	スポーツ・学習
主な対象	すべて
主な連携先	日本パラスポーツ協会、全国各地の車いすテニス協会等
団体の規模等	役員、事務局、ナショナルコーチ等約40名

活動の概要

車いすテニスの普及発展のため、年齢や身体的特長に関らず障がいのあるすべての人が「楽しく、自由に、のびやかに」各々の目的に応じて車いすテニスを愉しめるよう、ハード面・ソフト面での環境整備を目指し活動しています。また、車いすテニスを通じて、垣根のない共生社会づくり、心のバリアフリー化推進も図っています。

■ 活動内容

活動の主軸は、選手強化と普及活動です。海外遠征サポートや次世代選手を対象とした強化合宿開催など、パラリンピック等国際大会において活躍できる「心技体」すべてにおいて世界に通じるトップアスリートを育成するとともに、年間全国6～7か所で講習会・体験会を開催、障がいのない方ともコート上でともに汗をかき、テニスの楽しさを共有しながら相互理解を図ります。テニスをしたい、テニスが好きだという気持ちに障がいの有無は関係なく、互いにそれを応援し合う、共生社会の実現を目指しています。

また、全国各地での継続的な練習活動支援として、コーチ・トレーナー講習会を開催し指導者の育成に力を入れる一方、車いすテニス・レッスンビデオを作成し公開することで、居住地近くではコーチのいない選手にとって家族や友人と練習する際の参考としたり、練習方法を手探りされているコーチがレッスン内容の幅を広げるためにご利用いただいたり、地域に根差した様々な活動のサポートに取り組んでいます。



写真1 2021年11月宮崎県での体験会の様子

■ 活動の経緯・体制

アメリカより日本に初めて紹介された1983年以降、国内初の国際大会が1985年に福岡県飯塚市で開催されるなど国内での車いすテニス活動の活発な広がりを受け、連絡協議会として発足、2015年に法人化しました。強化本部では4年間のパラサイクルでの選手強化事業を、事業本部では理念に基づいた啓蒙活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

日本は世界強豪国の一つであり、東京2020パラリンピックでは、金メダル1個、銀メダル1個、銅メダル2個を獲得しました。また、全国各地で開催する講習会・体験会を通して、人と人、人と場所を繋ぎ、その地での継続的な練習環境整備や周辺のサポート体制の構築に寄与しています。

■ その他(団体紹介やホームページのURL等)

情報満載のホームページはこちら <http://jwta.jp/>



写真2 コーチ講習会(座学)の様子 その後実技も